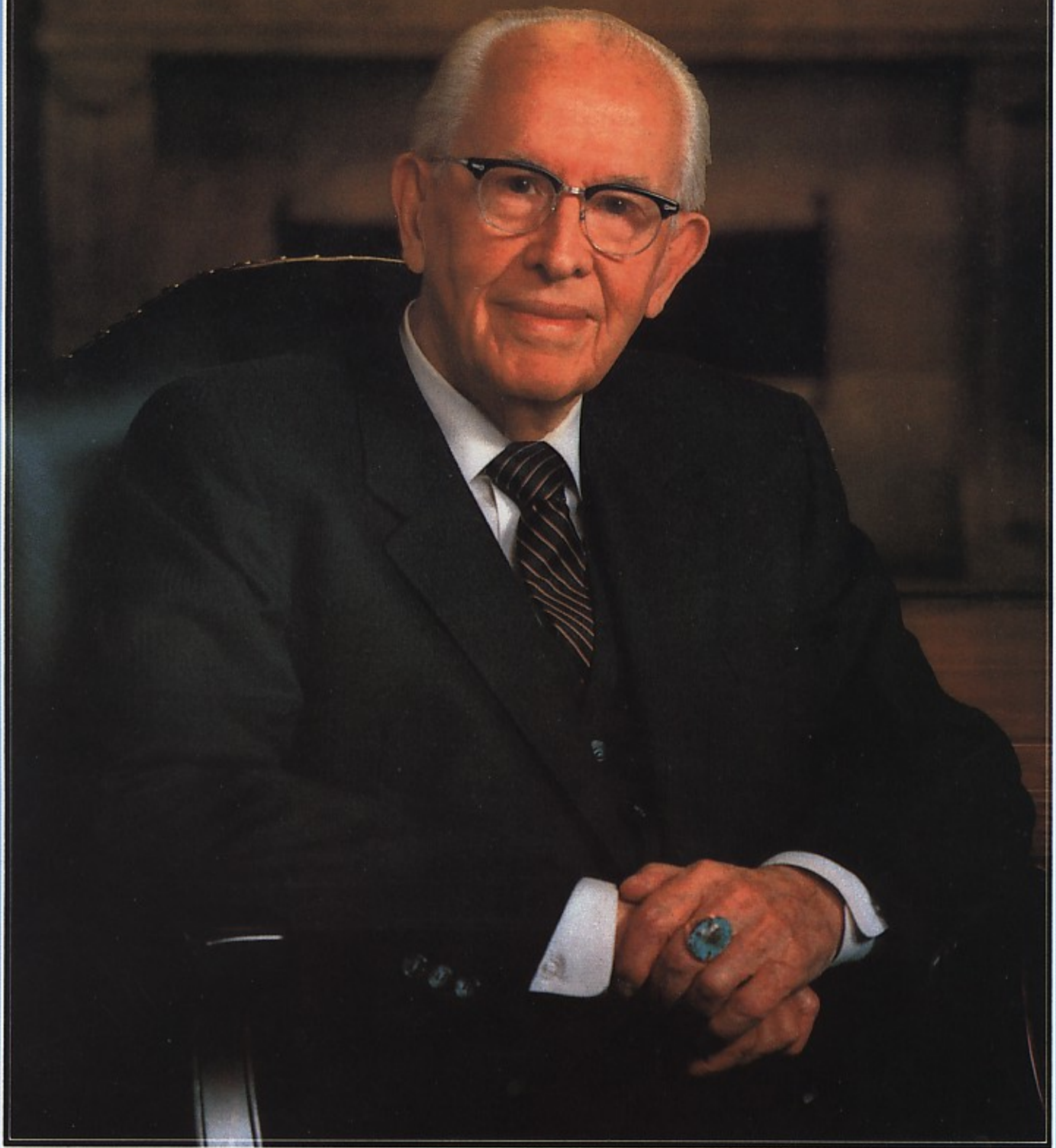


末日聖徒イエス・キリスト教会

# 聖徒の道

1987

3



# 聖徒の道

1987年 3月号

本書は「エンサイン」「ニューエラ」「フレンド」の記事を抜粋した、末日聖徒イエス・キリスト教会の公式刊行物です。

大管長会：エズラ・タフト・ベンソン、ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン  
十二使徒定員会：マリオン・G・ロムニー、ハワード・W・ハンター、ボイド・K・バックナー、マービン・J・アシュトン、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ジェームズ・E・ファウスト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン

顧問：ヒュー・W・ピノック、ジョン・H・グローバーク、ジェームズ・M・バラモア、デレク・A・カスパート

編集長：ヒュー・W・ピノック

教会機関誌ディレクター：ロナルド・L・ナイトン

編集主幹：ラリー・A・ヒラー

編集副主幹：デビッド・ミッチェル

編集主幹補佐：ジャン・U・ビンボロー

子供の頁編集：ダイアン・プリנקマン

レイアウト/デザイン：N・ケイ・スティープンソン、シャリ・クック

制作：レジナルド・J・クリステンセン

マーケティング・マネージャー：トーマス・L・ピーターソン

聖徒の道 1987年3月号第31巻第3号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-440-2351

印刷所 株式会社 精興社

定価 年間予約/海外予約2,200円(送料共)

半年予約1,100円(送料共)

普通号150円, 大会号(1, 7月号)350円

International Magazines PBMA0551JA

Printed in Tokyo, Japan.

Copyright © 1987 by the Corporation of the President of the Church of Jesus Christ of Latter-day Saints. All rights reserved.

●定期購読は、「聖徒の道」予約申し込み用紙でお申し込みになるか、または現金書留か郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/東京0-41512)にて管理本部経理課へご送金いただければ、直接郵送いたします。●「聖徒の道」のお申し込み先……〒106東京都港区南麻布5-10-30/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部経理課 ☎03-440-2351(代表)●「聖徒の道」の配送についてのお問い合わせ……〒194東京都町田市小川1704-1/末日聖徒イエス・キリスト教会 資材管理部配送センター ☎0427-96-2820

## ● — も く じ —

大管長会メッセージ：落胆してはならない

エズラ・タフト・ベンソン 2

家庭訪問メッセージ：

—生涯学び続けましょう 8

人々を結びつける福音の絆

中央扶助協会会長会に聞く 10

国際機関誌の発刊20年を迎えて

愛のレッスン カレン・アン・アンダーソン 16

十二使徒定員会会長マリオン・G・ロムニー

マービン・K・ガードナー 18

仕えるなら愛しなさい

スーザン・ハインズワース 26

「一方通行ではだめです」

W・グラント・バンガーター 30

— 若人のために —

聖餐会の話のための処方せん

クリス・クローウェ 40

まだ終わりではない

ジャネット・トーマス 42

トウモロコシ畑で学んだ教訓

サンドラ・ストーリングス 44

人生に渦巻く力

ラッセル・M・ネルソン 46

地域会長会メッセージ、各地のたより

子供のページ(別冊付録)

キムのお父さん

ダイアン・アンドロー・ウィンツラー 2

もしあなたがその場にいたら

メイブル・ジョーンズ・ガボット 4

せいてんの登場人物

7

おもちゃばこ

8

表紙：エズラ・タフト・ベンソン大管長



# 落胆してはならない

大管長

エズラ・タフト・ベンソン

**主**が予告されているように、私たちは現在人々が肉にあっても、また霊にあっても恐れおののいている時代に生き(教義と聖約45:26参照)、多くの人はこの人生の戦いに疲れ、落胆しています。最近の大学生のおもな死因は自殺であると言われていました。また試練と苦難の伴う善悪の最後の対決の時が近づくにつれて、サタンは聖徒たちを失望と落胆の淵に沈め、暗い陰うつな気持ちにさせて滅ぼそうと、前にも増して躍起になっているのです。

しかし、私たち末日聖徒は、すべての民の中にあって慌てず、しかも決して悲観的にならないようにしなければなりません。なぜなら「地より平和の取り去られ、悪魔自らの領土を支配する時」であっても、「主もまたその聖徒らを支配し、その真中<sup>まんなか</sup>にありてこれを統治」されることをよく知っているからです。(教義と聖約1:35, 36)

将来の困難な時代にあっても、教会はそれを導かれる神のみ手のもとに存続することは確かです。そうだとすれば、私たち一人一人の責任は教会とその教えに忠実であることではないでしょうか。「最後まで固く立ち、打ち勝たれざるものは救われるべし。」(ジョセフ・スミス1:11) 私たちがこの失望と落胆、絶望を与える悪魔の計画に打ち負かされないように、主は多くの方法を用意してくださいました。そしてこの方法に従えば、私たちの霊性は高められ、喜びへ通じる道に歩み出せるのです。

## 1. 悔い改め

モルモン経の中に、「絶望は悪い行いから来る」(モロナイ10:22)という言葉が書かれています。またアブラハム・リンカーン大統領は次のように言っています。「善いことをしたときは気持ちも良いが、悪いことをしたときには気持ちも悪い。」罪悪は人を絶望と落胆の淵へ引きずり込むものです。そして罪悪を犯して一時的な快樂を得たとしても、結局は不幸に終わってしまうのです。「罪悪は決して幸福を生じたことはない。」(アルマ41:10) 罪悪は神の業と調和

しないばかりか、むしろ霊を弱めるものです。したがって、人はいつも神のすべての律法と調和しているかどうかみずからをよく吟味しなければなりません。私たちが守るあらゆる律法には、それ相応の祝福があります。しかし律法を守らなければ、必ずそれ相応の挫折を身に招くことになります。絶望という重荷を背負っている人は、主のもとに来てください。主のくびきは負いやすく、その荷は軽いからです。(マタイ11:28-30参照)

## 2. 祈り

私たちは助けが必要なときには、祈りを通して大きな恵みを受けることができます。ささいな問題から、ゲツセマネのようなひどい苦しみを伴う試練に至るまで、私たちは祈ることによって、それも絶えず祈りを捧げることによって神に近づき、大きな慰めと助けを得ることができます。「勝利者たらんことを常に祈るべし。」(教義と聖約10:5) 私たちは常に祈りを欠かしてはなりません。少年ジョセフ・スミスは聖なる森において悪魔が自分を破滅させようとしたときにどのように祈りを捧げたかについて、次のように記しています。「何とぞ逃れしめたまえと、全力を振りしぼって神を呼び求めた。」(ジョセフ・スミス2:16) これもまた、私たちが絶望に陥って破滅することのないようにするひとつの鍵です。

## 3. 奉仕

自分を忘れて人々のための義の業に熱心に務めるなら、見識がさらに高められ、個人的な問題に煩わされることもなくなっていくます。何よりも、物事を正しく見る力が得られることは確かです。ロレンゾ・スノー大管長は次のように言っています。「もし少しでもふさぎ込むようなことがあるときは、周囲を見回し、もっと苦しい状態にある人を探してください。それからその人のところに行って、その苦しみが何かを知り、主があなたに授けてくださった知恵

をもってそれを取り除くように努めるのです。そうするとあなたのふさいだ気持ちは晴れ、楽になるでしょう。そして主のみたまが注がれ、すべての事柄が明らかになることでしょう。」(「大会報告」1899年4月6日, pp.2-3)

霊的な成長という点から見れば、自分の問題を解決することにのみ追われている女性よりも、子供を正しく育てようと努めている女性の方が、良い機会に恵まれています。

#### 4. 労働

地はアダムのゆえに呪いを受けましたが、働くことは神からの祝福であって、悲しむべき事柄ではありません。神もなすべき仕事を持っておられます。私たちも仕事を持って働くべきです。退職した人の多くは活力を失くして、早く死に至る傾向があるようです。悪魔でさえも怠惰の地獄にいるよりは、できるはずもない砂のロープを作る仕事を選ぶ、という言葉があります。私たちはよく働き、自分自身と責任ある人々のために霊的、精神的、社会的、また物質的な必要を満たすようにすべきです。イエス・キリストの教会には、神の王国を前進させるためになすべきことがたくさんあります。伝道、家族の系図探求、神殿での奉仕、家庭の夕べ、そしてそのほかの教会の責任を受け、全力を

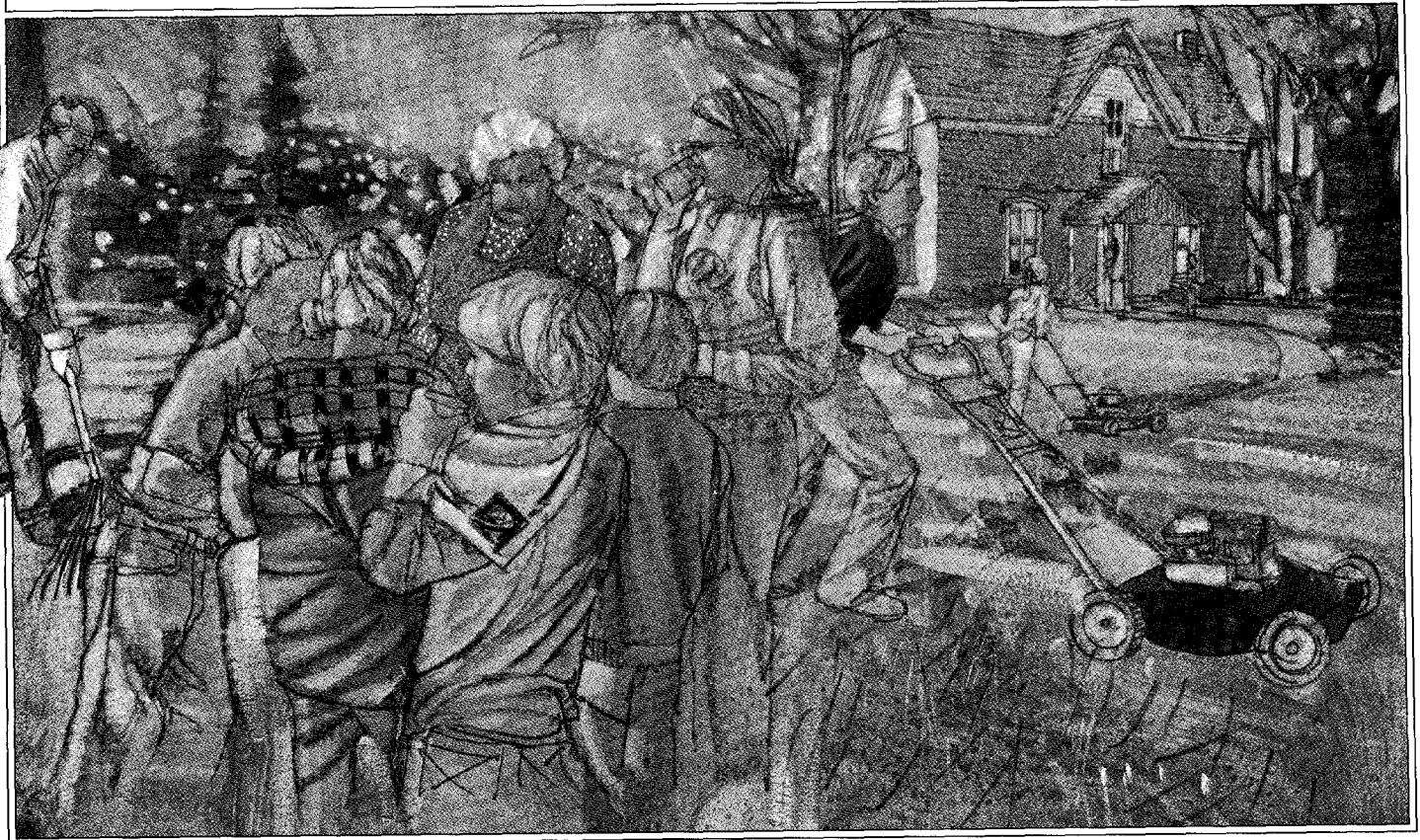
尽くして遂行することは、私たちがなすように求められていることのほんの一部に過ぎません。

#### 5. 健康

肉体の状態は霊にも影響を及ぼします。これこそ主が知恵の言葉を与えられた理由です。私たちは早寝早起きを励行し(教義と聖約88:124参照)、自分の力以上に急がず(教義と聖約10:4参照)、すべてに節度を保って行動すべきです。

一般に食物は、自然のままの状態、また添加物を加えずに精製もできるだけしないようにすれば、私たちの健康にとってさらに良い物となります。食物は心にも影響を与えます。そして肉体を構成するある要素が欠乏すると、心もふさいでいきます。

定期的に健康診断を受けておこなう、予防に役立ち、病気の早期発見をし、すぐに治療することができます。休息と運動は健康には欠かせません。また新鮮な外気の中の散歩は霊を活気づけてくれるものです。健全なレクリエーションは私たちの宗教の中でも重要な位置を占めるものです。レクリエーションは生活に必要な変化をもたらし、精神を高揚させてくれます。





## 6. 読 書

これまで多くの人が試練に直面したとき、モルモン経を開き、力と励ましと慰めを得てきました。また旧約聖書の詩篇も、苦しみに陥った人々にとって特別な心の糧となっています。今日私たちには、近代の啓示である教義と聖約という書物が与えられています。予言者の言葉、特に教会の現在の大管長の言葉は是非読む必要があります。これらは失望している人に導きと慰めを与えるものです。

## 7. 祝 福

人は特に危急の際に、また重大な危機に直面したとき、神権者の手によって祝福を受け、慰めと導きを得ることができます。予言者ジョセフ・スミスでさえも、ブリガム・ヤングに祝福を求め、ともに慰めと導きを得たことがあります。父親の皆さんは自分の妻と子供たちに祝福を与えることができるよう、それにふさわしい生活をしてください。祝福師の祝福を受け、その言葉を絶えず祈りの気持ちをもって思い巡らすならば、特に助けを必要とするときに、導きを得ることができます。また、聖餐はそれにあずかるすべての人々に祝福をもたらしてくれます。(教義と聖約20:77, 79参照) したがって、しばしば聖餐を受ける必要があります。病床に伏している人々もそうすべきです。

## 8. 断 食

ある種の悪霊は祈りと断食によらなければ、追い出すことはできないと聖典に記されています。(マタイ17:14-21参照) 私たちは定期的に断食することによって、心を清め、肉体と霊を強めることができます。通常の断食、すなわち断食日曜日に行なうよう告げられている断食は、食物も飲み物も口にすることなく、24時間行なうものです。必要な場合、ただ飲み物を取るだけで、それ以上長く断食する人もいます。断食に際しては知恵を用いるべきです。そして断食を終えるときには、胃の負担にならない程度のおもてつけをもって終わるとよいでしょう。断食を突りあるものとするためには、祈りとめい想が欠かせません。また、体を使うことは最小限にとどめる必要があります。聖典の言葉や断食を行なう理由についてよく思い巡らすことができれば、そのこと自体が祝福となるのです。

## 9. 友 人

あなたの言葉を聞き、喜びを分かち合い、あなたの重荷を負い、あなたに正しく助言を与えてくれる真の友との交わりは、決してお金で買えるものではありません。絶望の獄に捕らわれている人にとって、予言者ジョセフ・スミス



「友からの便りは心に深い喜びを与えてくれる。それは、友情のしるしであり、たとえだれからのものであれ、思いやりの気持ちと呼び覚まし、さらに行動へと駆り立てる。」(ジョセフ・スミス)

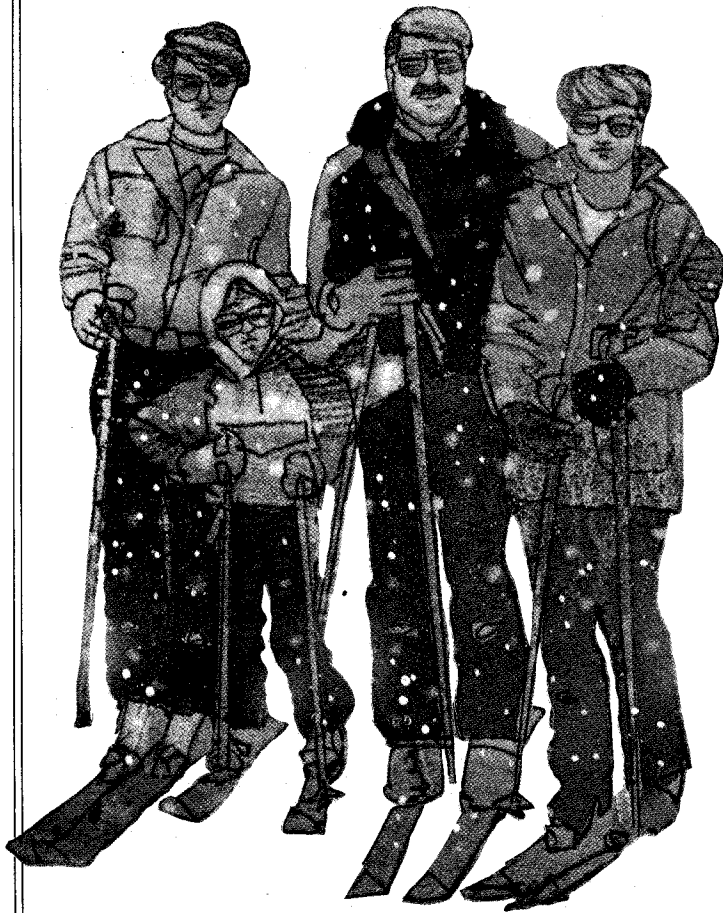
の次の言葉は特別な意味を持つ言葉です。「友からの便りは心に深い喜びを与えてくれる。それは、友情のしるしであり、たとえだれからのものであれ、思いやりの気持ちと呼び覚まし、さらに行動へと駆り立てる。」(「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.134)

あなたの家族が最も親密な友人であることが理想的です。そして最も大切なことは、天の御父ならびに私たちの兄であるイエス・キリストと友になるように願うことです。あなたを徳に導く人と友になれることはすばらしい祝福です。友を得るには、自分から好意を示さなくてはなりません。友情はまず家庭から始まり、ついでホームティーチャー、定員会指導者、監督、そのほか教会の教師や指導者へと広がっていくものです。また、聖徒たちとしばしば会合し、交わりを持つことによって、気持ちを鼓舞することもできます。

## 10. 音 楽

靈感に満ちた音楽は、崇高な思いを心に満たし、正しい行ないへ人を駆り立て、心に平安をもたらしてくれます。

健全なレクリエーションは  
私たちの宗教の中でも  
重要な位置を占めるものです。  
レクリエーションは  
生活に必要な変化をもたらし、  
精神を高揚させてくれます。



サウルが悪霊に悩まされていたとき、ダビデはサウルのために琴を弾きました。するとサウルの気持ちは静まり、悪霊は彼を離れました。(サムエル上16:23参照)かつてボイド・K・パッカー長老が、靈感あふれるシオンの歌をいくつか覚えるようにとの賢明な勧告をしたことがあります。

(1973年10月総大会) 誘惑に遭い、心が動揺しているとき、讚美歌を口ずさみ、靈感に満ちた言葉を思い出すことによって、悪い思いを拭い去ることができるからです。またこうすれば、弱々しい沈んだ思いをも拭い去ることができるのです。

## 11. 忍 耐

かつてジョージ・A・スミスが病気を患っていたとき、彼のいとこの予言者ジョセフ・スミスが見舞いに行きました。ジョージ・A・スミスは当時の模様を次のように述べています。「彼(予言者ジョセフ・スミス)は、どのような苦しみに見舞われても、落胆してはならない、努力を続け、信仰を用い、真の勇気を失わずにそれらの中から抜け出し、その頂に立たなければならない、と私に言いました。」(「ジョージ・A・スミスの家族」ゾラ・S・シャープ編、p. 54)

悪魔の陰うつな霊があなたを離れるまで、ただ正直に悪魔の働きかけに耐え続け、負けないようにしなければならないときがあります。主は予言者ジョセフ・スミスに次のように言われました。「汝の不幸、汝の困苦はただこれ束の間なり。

然り而して、もし汝よくこれを耐え忍ばば、神は汝を高きに挙げたまわん。」(教義と聖約121:7-8)

たとえ絶望の真ただ中にも、心からの努力を払うことによって、私たちはついには輝く光のもとに立ち返ることができるのです。私たちの主なる救い主イエスでさえも、十字架にかけられていた間、一時御父からひとり取り残されて最後の試みに直面されたのです。そして人の子らのためにその業を続けられました。それから間もなく、救い主は栄光を得、全き喜びを受けられたのです。試練に遭うときには、かつて得た勝利を思い起こし、忠実であれば続いて与えられる恵みを数えることができます。この試練に添えて、さらに大きな祝福が与えられるという確固たる希望が持てるのです。また、時至らば神がすべての者の涙をぬぐいたもうこと、そして「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」(Iコリント2:9) ことを確かに知ることができるのです。



## 12. 目標

物事を判断する能力のあるすべての神の子は、目標、すなわち短期目標と長期目標を定める必要があります。適切な目標を達成しようと邁進している人は、落胆の気持ちなどすぐに打ち砕いてしまいます。そして、ひとつの目標を達成すると、すぐ新しい目標を定め、こうしていつも目標を持ち続けるのです。私たちは毎週聖餐を受けるたびに、イエス・キリストのみ名を受け、御子を常に忘れず、また主の戒めを守るという目標に対して決意を新たにします。聖典には、イエス・キリストがみ業の準備をするに当たって、「ますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された」(ルカ2:52)と書かれています。これには霊的、知的、肉体的、社会的な4つの面が関係しています。また主は、「汝らはいかなる人物にてあるべきか。まことに汝らはわれと同じ人物ならざるべからず」(IIIニーフアイ27:27)と言われました。私たちは、主の足跡を踏み、主と同じようにすべての美德を具え、主を拝し、私たちの召しと選びを確かなものにするためにみ業に励むという生涯の目標を持っています。

使徒パウロは次のように述べています。「兄弟たちよ。……ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の賞与を得ようと努めているのである。」(ピリピ3:13-14)

主のようになろうという目標を心に抱いてください。そうすれば、主を知り、主のみこころを行ないたいと心から求めることによって、沈んだ気持ちを払い去ることができ、使徒パウロは「キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい」(ピリピ2:5)と言いましたが、キリストも「何を念うとも、念々われを見るべし」(教義と聖約6:36)とっておられます。もし私たちがこのようにすれば、どうなることができるのでしょうか。「あなたは全き平安をもってころざしの堅固なものを守られる。」(イザヤ26:3)

予言者ジョセフ・スミスは次のように言っています。「救いとは、自分のすべての敵に打ち勝ち、それらを足下に踏みつける以外の何ものでもない。」(「予言者ジョセフ・スミスの教え」p.297)神が義になかった方法を与えておられることを心に留めるなら、私たちはこの失望、落胆、絶望といった敵に打ち勝つことができます。そして、ここで私が述べたのはそのための方法です。「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に合わせることはないばか

りか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」(Iコリント10:13)

まことに、人生は試練です。人生は試みの世なのです。いにしえに神に仕えた人々は、自分のことを「この世をさすらう旅人にして巡礼」(教義と聖約45:13)であると考えましたが、天の家を離れている私たちもそのような気持ちを抱くときがあります。

皆さんは、ジョン・バンヤンの「天路歷程」という本を知っておられると思います。クリスチャンという名の主人公が、苦難の末、天の都へ迎えられたという話です。彼はそれを自分の目標としました。しかしこの目標を達成するためには、多くの障害を克服しなければなりません。その中のひとつが「落胆の沼」からの脱出でした。霊性を高め、喜びへ通じる道に歩みを進めるために、私たちは失望と落胆、絶望という悪魔の計画に打ち勝たなければなりません。そのためには、私が今述べてきた12の方法があります。すなわち悔い改め、祈り、奉仕、労働、健康、読書、祝福、断食、友人、音楽、忍耐、それに目標です。

将来困難に遭遇するとき、皆さんがこれらをすべて用いて、巡礼者クリスチャンのように大きな幸福をこの世で得、そして日の光栄の最高の王国において全き喜びを受けることができるようにお祈りします。□

## ホームティーチャーへの提案

**強調点:** ホームティーチングのときに以下の点を話し合うとよいでしょう。

1. 主は私たちが落胆や失望を克服し、霊を高めることができるように、悔い改め、祈り、奉仕、労働、健康、読書、神権の祝福、断食、友人、よい音楽、忍耐力、目標など様々な助けを与えておられる。
2. 人生は試練の連続であるが、私たちが経験する試練で、「世の常でないものはない。神は真実である。……耐えられないような試練に合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」(Iコリント10:13)

### 話し合いを進めるために

1. 落胆や失望を克服できるように助けてくれる福音の力について自分の意見を述べる。家族にも話してもらおう。
2. このメッセージの中に、家族で読んだり話し合ったりするのによい聖句や話はないだろうか。
3. 話し合いをより充実したものとするために、訪問する前に家長と話し合っておくとよい。

# 一生涯学び続け



## 家庭訪問 メッセージ

目的：

生涯を通じて学び続けなければ  
ならないことを理解する

**「私** は今、主のみ名によって、皆さんのためにその鍵を開ける。この協会は喜びとなり、今より後知識と英知とが流れ下るであろう。」（「教会歴史」4：607）扶助協会が組織されて間もなく開かれた集会の席上、予言者ジョセフ・スミスは集まった姉妹たちにこのように述べました。ふさわしいすべての姉妹たちの権利であり祝福であると、予言者が約束したこの「知識と英知」を受けける状態に自分を置くことは、私たちの責任です。

私たちは皆、生まれつき絶えず学んで向上したいという強い望みを持って、地上にやって来ます。それは、天の両親から受け継いだ特性です。天父は、私たちに知識を恵みたいと待っています。「何人かよくかよわき腕をさし伸べて、神の命じたまえる水路を流るるミズーリ

# ましよう

ながれ とど  
の流を止め、またはこれを逆流せしむることを得んや。もし、よくこれを為し得れば全能の神が末日聖徒の頭上にいと高き所より知識を注ぎたもうを止むることを得ん。」(教義と聖約121:33)

大管長会のゴードン・B・ヒンクレー副管長は、主が末日聖徒の女性に与えてくださった祝福を数えて、皆さんには「知性と技術に磨きをかけ、才能を伸ばし、社会で働くための力を身につける」機会があると語りました。そして、「皆さんは男性と同じく、この世に来るすべての人を照らすキリストのみたまを、受けることができるのです(教義と聖約84:46参照)」と述べています。(1986年10月の総大会にて)ヒンクレー副管長は、結婚や家族を優先しつつも、「教育を求め」かつ「芸術や文化を観賞する力を求める」ようにと勧めています。

現在の状況がどうであれ、私たちは自分の知識を増し、理解を深める努力はできるのです。だれでも自分の家庭を学問の家とすることができます。身の周りに聖典や良書を置き、心を高揚させる音楽や健全な活動に接するのです。(教義と聖約88:118-19参照)たとえほかの用事があってすべての集会に出られないとしても、日曜学校や扶助協会のレッスンを毎週勉強することはできます。

スペンサー・W・キンポール大管長は、「私たちは、末日聖徒の女性たちが才能豊かな役に立つ人になるよう望んでいます。

「汝もし願ひ求むれば、  
啓示を啓示の上に受け、  
知識の上に知識を受け、  
かくて悦びをもたらし  
永遠の生命をもたらすべき奥義にして  
平和なることを知るを得べし。」  
(教義と聖約42:61)

す。皆様が与えられている技術を高め、神から授かっている才能を活用するなら、この世にあって、また永遠にあってさらに優れた母親となり、妻となることでしよう」と述べました。また、女性が聖典を学ぶべきことを強調し、こうつけ加えています。「私たちは皆様が年齢を問わず、また既婚、未婚、未亡人を問わず、家庭に聖典の知識を生かせる姉妹となっていたきたいのです。」

中には本格的な学問を目指す人もいます。科学や医学、事業に貢献する人、芸術に進む人もいます。しかし、私たちのだれもが持っているのは、

家族や友人、生徒たちの生活に良い影響を与えるという可能性です。

私たちは人生の道を選ぶとき、その道が主に認められるかどうかを知ることができるのです。□

## 訪問教師への提案

1. 自分の家庭を「学問の家」とするためには、どうしたらよいのでしょうか。
2. 扶助協会のレッスンやほかの姉妹たちとの交際が、学習意欲を高め、周りの人々への影響力を増してくれることについて、話し合みましょう。

# 人々を結びつける 福音の絆

## 中央扶助協会会長会に聞く



中央扶助協会会長執務室において 会長：バーバラ・W・ウインダー姉妹(中央)、第一副会長：ジョイ・F・エバンズ姉妹(左)、第二副会長：ジョアン・B・ドクシー姉妹(右)

**中** 央扶助協会会長バーバラ・W・ウインダー姉妹とふたりの副会長はソルトレークシティに住んでいますが、その目は世界中の姉妹たちに向けられています。中央会長会として働いてきた約3年の間に、ウインダー姉妹とジョイ・F・エバンズ姉妹、ジョアン・B・ドクシー姉妹は、様々な国の姉妹たちと会ってきました。扶助協会が国境の壁を乗り越えて世界中の教会の姉妹たちをどのように結びつけるのかを、会長会の3人に聞いてみました。

今世界中の末日聖徒の女性が直面している問題で、何が最も重要であると考えていますか。

**ウインダー姉妹**：全世界的に経済情勢が非常にむずかしい局面にあります。政治問題についても同じです。しかし私たち女性にとってもっと大切なのは、今の世の中の道徳的な問題だと思います。世の中の道徳水準は、私たちがイエス・キリストの福音の中で教えていることとはまったく異なるものです。

**エバンズ姉妹**：お互いの文化的な背景はまったく違うものですが、女性が直面している問題に共通したものがあるのは、非常に興味深く思えます。

**ウインダー姉妹**：それは、私たちが必要としているものが、基本的にはみな同じだからです。

**ドクシー姉妹**：末日聖徒の姉妹たちが共有している水準は霊的なものです。また、私たちが教会員であるのには、皆同じ理由があります。その理由とは、主を愛し、主の導きを求めているという点です。私たちにはお互いを結びつけてくれる絆があります。それが福音です。

扶助協会は、女性が福音の標準を保てるように、どのような助けをすることができのでしょうか。

**ウインダー姉妹**：今年の扶助協会の教科課程では霊的生活のレッスン回数が従来の2倍になっています。それは姉妹たちが現在世の中で直面している様々な問題に立ち向かっていく力を強めるためのものです。福音の原則を教えることによって、姉妹たちが直面している問題を克服する力を伸ばせるように助けることができます。

**エバンズ姉妹**：世の人々が何と言おうとも、主との誓約を守るのがどれほど大切なことかを理解できるように、姉妹たちの力になればと願っています。文化は様々な違っても、福音の原則に変わりはありません。

教会員でない人を夫に持つ人が数多くいますが、彼女たちがこのチャレンジに向かっていくにはどうしたらよいと思えますか。

**エバンズ姉妹：**そのようなご主人が妻に対して教会に行くことを許すかどうかは、大体そのご主人自身の意向いかんにかかっています。それに、子供たちのバプテスマを許すかどうかも同じですね。ご主人の許しが得られない姉妹たちはずいぶん苦しい思いをしておられると思います。

**ウインダー姉妹：**教会員でない人を夫に持つ姉妹たちにも神殿に参入して自分自身のエンダウメントを受けられるようになるという発表があったときに、私はヨーロッパにいましたが、多くの姉妹たちが喜びの涙を流すのを見ました。

全世界の末日聖徒の女性たちは霊的にどのような状態にあると思えますか。

**ウインダー姉妹：**福音がもたらす希望の精神にあふれています。それは、希望と喜びのメッセージを受け入れた人々の生活に生じる変化です。

最近、ワード部とステーク部のレベルで扶助協会の組織に変更がありましたが、これは全世界の姉妹たちにどのような助けとなるのでしょうか。

**ウインダー姉妹：**ステーク部の扶助協会の組織は、会長と副会長と書記兼会計係だけで構成されるようになります。ワード部の扶助協会の組織は地元各ユニットの状況に合わせて調整できます。ごく小さなユニットなら、会長ひとりだけでも運営していけると思います。副会長、書記兼会計係、教師、管理会員などは、ふさわしい姉妹が出てきた時点で召すことができます。

**ドクシー姉妹：**私たちは扶助協会のプログラムをできるだけ簡素で、融通のきく、柔軟なものにしようと努めてきました。今回のステーク部とワード部レベルの変更にはそれがよく表われていると思います。

扶助協会の指導者たちは、姉妹たちの状況に合わせたものとするために、たとえば家庭訪問などのプログラムをどのように調整しているのでしょうか。

**ドクシー姉妹：**会員が広い地域に散在して、交通費や時間的負担が多い、あるワード部の例をお話したいと思えます。そのワード部では家庭訪問を教会でしています。姉妹たちが皆、毎週定例集会のあとで行なうのです。姉妹たちはそれぞれ自分の担当地区に住む姉妹たちを受け持っています。そして、病気の姉妹や生まれて間もない赤ちゃんなどの様子について報告がなされます。愛と関心のネット

ワークを持っているのです。その家庭訪問も、月に1度だけでなく、毎週行なっています。

随分工夫をしているんですね。

**ウインダー姉妹：**そうです。世界各地の姉妹たちはそれぞれ、現時点における自分たちの力の限界をよくわきまえています。そして創意工夫でその限界を乗り越え、互いに交わりを保っています。置かれている状況のむづかしさに負けず、彼女たちはお互いの理解をさらに深めています。天父が互いに愛し、手を差し伸べるように強く望んでおられることを理解しているんです。

**エバンズ姉妹：**障害はほかにもあります。文化の違いによって、姉妹が互いの家を訪問するような習慣がない場合もあります。あるのは家族としての訪問だけなのです。そのような場合でも、皆教会という「家族」に属しているのだということを強調して教えますと、そのような習慣の中で生きてきた姉妹たちも、もっと楽な気持ちで互いの家に訪問することができるようになっていきます。

コミュニケーションを図るうえで障害となっている事柄についてはどう考えておられますか。扶助協会の指導者の中には、電話を使って姉妹たちの様子を知るといったことができない状況の人もいると思えますか。

**ドクシー姉妹：**インドネシアのある扶助協会会長で、電話を持っていない方の例ですが、彼女は毎朝自分を必要としている人を教えてくださいと天父に祈るそうです。それから、心に強く感じた所へ行きます。そのようにして、彼女の助けを必要としている人々の家に訪問することがよくあるそうです。

**エバンズ姉妹：**アイルランド出身の、電話も自動車も持っていないある会長は、自転車にふたりの子供を乗せて家庭訪問をしています。

扶助協会の指導者は、姉妹たちの必要を満たすために、ほかにもどのようなプログラムの調整ができるのでしょうか。

**エバンズ姉妹：**私たちは、神権者の承認を得たうえで、週日の活動を行なうように強調しています。可能な地域では、これを行なってみてほしいと思います。姉妹たちにとって大切なことを学ぶ場にすることができます。衛生学、栄養学、救急療法、あるいは文化的な面での教養などを身につけるためにレッスンを行なってもよいでしょうし、日曜日のレッスンを聞けない母親たちのために、家庭教育のレッスンをもう1度行なう場にすることもできます。

全世界の姉妹たちと心を通わせ、その必要を知るためにどのようにしていますか。

**ウインダー姉妹**：地域会長のご婦人たちが、扶助協会、初等協会、若い女性の中央管理委員会として働いてくださっています。彼女たちはご主人に同伴して各地のステーク部大会に出席します。普通彼女たちは、神権者の集会が開かれる時間帯に、そのステーク部の女性の指導者たちと会合を持ちます。その席で地元の指導者たちに扶助協会の方針を紹介したり、人々の必要を満たすためのプログラムの計画や、プログラムの柔軟な応用といったことについて話したりします。そして彼女たちは総大会のときに教会本部へ来て、世界各地の状況について私たちに報告してくれます。そのとき、もちろん私たちからもソルトレークシティで行なわれていることを彼女たちに伝えます。

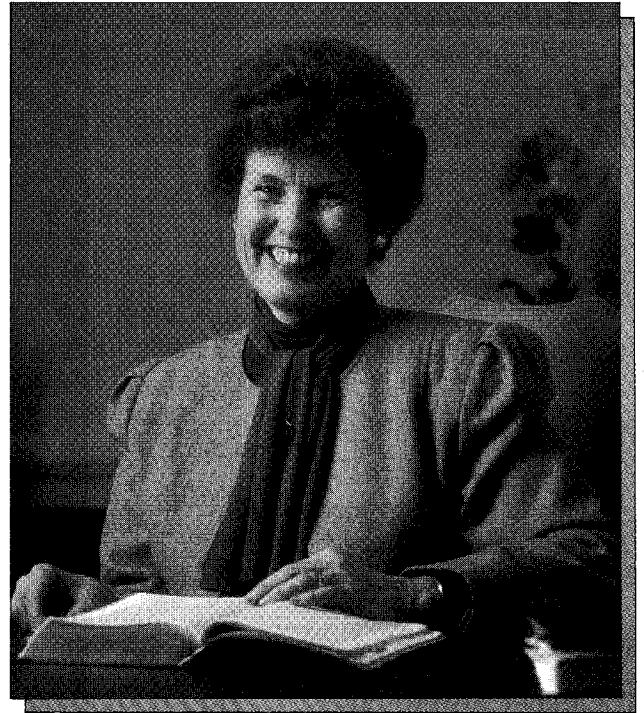
全世界の姉妹たちに伝えたいと思うメッセージが何かありますか。

**ウインダー姉妹**：私がお伝えしたいのは、ひとりで暮らしている姉妹であれ、両親と同居している姉妹であれ、あるいは結婚している人であれ、姉妹たちは皆、家の中のことを整える責任があるという点です。文化的な背景がどのように違っていても、一人一人の姉妹が力をつけ、みずからの義務を自分自身で果たせるように強くなっていくことが非常に大切です。女性は家庭を自分自身と家族のための避け所とする必要があります。

### 扶助協会の使命

扶助協会の使命は、女性が以下のことができるように援助することにあります。

1. 神への信仰を持ち、主イエス・キリストの福音に対する個人的な証を築く。姉妹たちが天父とイエス・キリストに対する知識を増し加え、また回復された福音に従い、それを人々に分かち合えるように励ましを与えるための機会が設けられています。
2. 教会の家族を強める。姉妹たちは家族の永遠性につい



て学んで知っています。また神殿や系図の業に積極的に取り組むように勧められています。また個人と家族を強めるために、ホームメイキングや子供の養育などについて学ぶ機会が設けられています。愛にあふれた姉妹同士のあり方について学び、その理想に近づき、仕え合う機会が与えられています。

3. 愛の精神をもって奉仕を行なう。扶助協会の姉妹たちは、助けを必要としている人々に愛の奉仕を行ない、個人と家族を強めるための働きをします。この無私な奉仕によって、自尊心とすべての人への愛を強めていくことができます。
4. 神権者を支持する。姉妹たちは神権の意義とその祝福について理解し、個人的なことや扶助協会に関する事柄について神権指導者に導きを求めるように教えられています。





## 世界の教会機関誌

# 国際機関誌の 発刊20年を迎えて

**W**・W・フェルブス兄弟がその胸に秘めていた展望は、決して小さなものではなかった。1832年に末日聖徒のための最初の定期刊行物を世に出したとき、彼はそれが海を越え、文化や言葉の隔たりを越えて、全世界に広まっていくことを思い描いていたのである。「イブニング・アンド・モーニングスター」が「永遠の福音の伝達者」となり、「すべての国民、血族、国語の民、民族に真理を広める」ようになると予想していたのである。（「教会歴史」1：259）

しかし「イブニング・アンド・モーニングスター」は、その壮大な企図を完全に果たしたわけではなかった。事実、創

刊後わずか14カ月で廃刊となっている。印刷の途中で暴徒によって破棄され、間もなく聖徒たちはミズーリ州ジャクソン郡から立ち退くことになった。

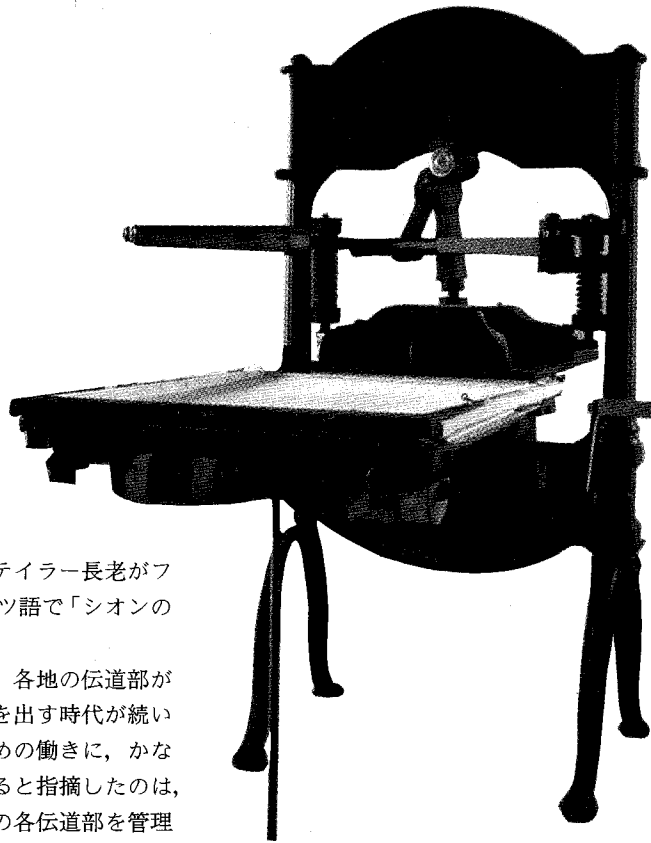
しかし聖徒たちは、カートランド、ノーヴー、グレート・ソルトレーク峡谷と、どこへ行こうとも、教会の機関誌が全地に真理を広めるようになるというフェルブス兄弟の夢を忘れなかった。

そして、「メッセンジャー・アンド・アドボケート」（カートランド、1833-37）、「エルダース・ジャーナル」（カートランド、1837-38）、「タイムズ・アンド・シーズンズ」（ノーヴー、1837-45）と、その流れは続いていった。宣教師たちが

新しい地で伝道を行なうときは、福音のメッセージを伝えるために、雑誌を発行する機会が少なくなかった。1840年に十二使徒定員会は、英国のリバプールで「ミレニアル・スター」を発刊した。

しかし、すべての人々にその国の言葉で真理を伝えるために機関誌を用い始めるようになったのは、ようやく1846年になってからであった。この年にダン・ジョーンズ長老がウェールズ語で「ヨベルの子言者——聖徒の星」を発刊したのである。これは英語以外の言語による教会誌としては最初のものであった。それからほどなく、5年後にはエラスタス・スノー長老がデンマーク語で「スカンジナビ





アの星」を、ジョン・テイラー長老がフランス語で「星」、ドイツ語で「シオンの旗」を創刊した。

100年以上にわたり、各地の伝道部がそれぞれ独自の機関誌を出す時代が続いた。これらの発行のための働きに、かなり不要な重複部分があると指摘したのは、1966年当時ヨーロッパの各伝道部を管理していたハワード・W・ハンター長老であった。質や内容にかなりの相違があったのである。

ハンター長老はできれば機関誌発行の仕事に相互調整し、一本化すべきだとの提案をした。そして教会幹部によって慎重な討議がなされたのである。そして今から20年前の1967年3月に、国際統一機関誌が初めて9つの言語で発行されたのである。以来、ほかの言語の版も加えられ、現在では13の言語で発行されている。

フェルプス兄弟の壮大な夢は今やより完全な形で実現されつつある。毎月40カ国以上にわたる地域の人々に、教会指導者のメッセージが、それぞれの国の言葉で伝えられているのである。国際機関誌は、すべての国、民族、国語の民、人々に福音を伝えるという最初の教会誌の使命を継承し、それを通して世界中の人々が自分たちの生活をさらによいものへと変えている。

教会誌の歩みはおよそ上述のようなものであるが、ここで国際機関誌の現状に

目を向けてみよう。以下は国際機関誌編集主幹ラリー・A・ヒラー兄弟との質疑応答である。

これまでに、「聖徒の道」はカラーページの増加、月刊化などの変更がありました。ほかにも大きな変更としてあげられるのはどのようなことでしょうか。

最も大切な変更は、読者自身が誌面作りに参加できるという点です。私たちは様々な国の読者から、より多くの記事が寄せられるように願っています。これまでも世界各地に有能な寄稿家を何人か見いただしていますが、より多くの有能なカメラマンやイラストレーターも求めています。

福音に国境はありません。ドイツであれ、ペルーであれ、サモアであれ、よい記事であれば、どの国の聖徒からのものであっても、世界中の教会機関誌に用いることができます。教会の偉大な力は、会員一人一人の証と正しい生活の中にあ

るもので、どこに住んでいるかは問題ではありません。そういう意味で、国際機関誌は、福音が伝えられている国や文化圏のすべての人に、その生活を正しいものに変える力をもたらす媒体となるものです。この教会は世界の教会です。ですから、この国際機関誌が本当の意味で国際的なものになるように願っています。

一般会員が投稿してもよいのでしょうか。

もちろんです。今国際機関誌に載っている記事の多くは、一般会員からの投稿によるものです。母親また父親、ホームティーチャー、初等協会の教師など、信仰を高める経験をした人、あるいは福音に従順な生活をするのに必要な知恵を得た人々が投稿してくれます。

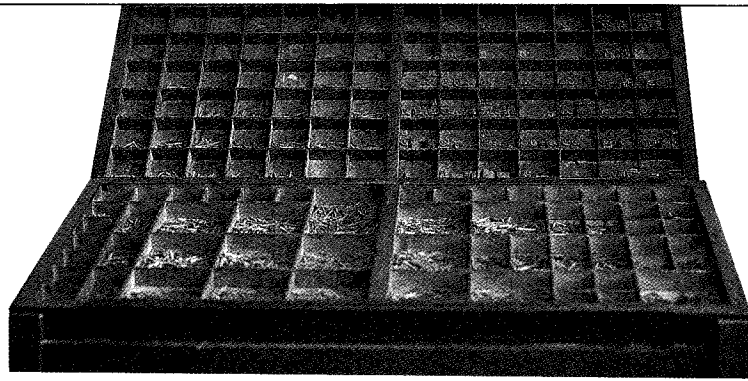
どのような記事がよいのでしょうか。

1. 信仰を高めてくれる経験を短くまとめたもの。改宗談や宣教師としての体験談などです。

2. あらゆる年齢層の模範的な末日聖徒についての記事。職業面で卓越したものを持つ会員、また地域社会に大きな貢献をしている会員、特に優れた宣教師、各地域で教会発展のために大きな力となってきた会員などに関する話は喜ばれます。

3. 福音の原則を生活の中にどう取り入れたらよいかという点についての記事。子供に福音の原則を教えるにはどうしたらよいか、伝道をどのように行なうかといった事柄についての記事です。





4. 地元の教会の歴史に関して詳細に調査した記事。

投稿はどのようにしたらよいでしょうか。記事を送ったあとは、どうなるのでしょうか。

記事は次の住所に送ってください。  
〒106東京都港区南麻布5-10-30  
末日聖徒イエス・キリスト教会  
「聖徒の道」編集室

ほかの雑誌などの例にもれず、すべての原稿が採用になるわけではありません。編集者によって選ばれた記事は、承認を得た後に初めて掲載決定となります。その記事は編集者によって手加えられ、読みやすいものに整理されていきます。この作業は随分と時間がかかり、実際に掲載されるのは記事を送ってから大体2カ月後ということになります。

国際機関誌は必ず全ページを読まなければならないものなのでしょうか。

この機関誌は、あらゆる年代の人々、指導者や一般会員、また様々な教育や職業的背景を持つ人々、独身者や既婚者、家族全員が末日聖徒の家庭、一部だけが末日聖徒の家庭などを読者として想定しています。私たちは、多種多様な関心と必要に応じていかなければならないと思っています。同じ記事でも、すべての読者が同じ関心を寄せるとは限りません。

この機関誌は様々な種類の料理を載せたひとつのテーブルのようなものです。いろいろな料理を食べれば、それだけ必要な栄養素を不足なく取ることができます。

霊的な必要をもっとよく満たすには、少なくとも様々な分野の記事を読む必要があります。しかし、この機関誌の性格を考えると、すべての読者がすべての記事を読むとは考えていません。私たちが望んでいるのは、読者がみずから読む記事を通して、信仰を高め、福音により従順な生活を送るのに役立つ知恵を得ることです。そうすれば、国際機関誌の目的が達成されることになります。

### 教会機関誌がたどってきた 長くすばらしい歩み

1846年7月 ウェールズのマーサー・チドフィールで、英語以外の言語で初の機関誌「ヨベルの予言者——聖徒の星」が発刊される。ダン・ジョーンズ長老が編集、発行したこの機関誌には、教義や歴史に関する記事、教会指導者からのメッセージ、教会に加えられる攻撃への回答などが掲載されていた。

1851年 エラスタス・スノー長老がデンマーク語で「スカンジナビアの星」を発刊する。ジョン・テイラー長老がフランス語の「星」とドイツ語の「シオンの旗」を発刊する。

1862—1966年 各伝道部が次のような様々な機関誌を独自に発行する。

「星」—1862年、ドイツ語  
「北極星」—1877年、スウェーデン語  
「星」—1896年、オランダ語  
「ノルウェーの光」—1922年、ノルウェー語

「聖徒の声」—1959年、中国語  
「光」—1950年、フィンランド語  
「リアホナ」—1937年、スペイン語  
「リアホナ」—1948年、ポルトガル語  
「聖徒の友」—1965年、韓国語

1966年 ヨーロッパの各伝道部を管理していた十二使徒定員会のハワード・W・ハンター長老が、各機関誌の質の相違と仕事内容の重複を指摘し、一本化を提案する。

1967年3月 9つの言語で統一機関誌が発刊される。

1987年3月 国際機関誌発刊20年を迎える。現在以下の版が発行されている。

中国語「聖徒の声」  
デンマーク語「星」  
オランダ語「星」  
フィンランド語「光」  
フランス語「星」  
ドイツ語「星」  
イタリア語「星」  
日本語「聖徒の道」  
韓国語「聖徒の友」  
ノルウェー語「ノルウェーの光」  
フィリピン語「タンブリ」  
ポルトガル語「リアホナ」  
サモア語「リアホナ」  
スペイン語「リアホナ」  
スウェーデン語「北極星」  
タヒチ語「星」  
タイ語「シオンの避け所」  
トンガ語「たいまつ」□

7年ほど前、マリー・ホリーとマーガレット・アダムソンが、ノースダコタ州の私たちのワード部に転入して来ました。ふたりとも看護学の博士号を持っていて、ノースダコタ大学の看護学校で大学院課程プログラムを企画する仕事についていました。それはやりがいのある仕事で、ふたりは精力的に働き始めました。これほど有能なふたりをワード部に迎えて、私たちは祝福されていると思ったものでした。

転入して来てちょうど6カ月たったころ、マリーは自分が珍しいガンにかかっていることを知りました。医師は彼女の命があと数カ月と判断しました。

しかし医師たちはマリーの生きたいという強い望みを知りませんでした。およそ3年もの間、彼女は働きながらみずからの意志の力と医師の処方によるあらゆる医学的処置によって、病気と闘ったのです。そしてついに重体に陥った彼女は、仕事から身を引かなければならなくなりました。

体力が衰えて、自宅で身の周りのこともできなくなると、マリーは人を雇って食事や入浴の世話、家事を頼みました。私はマリーの訪問教師でしたので、同僚と共にできる限りの助けをしました。彼女の友人であるマーガレットは、毎日仕事が終わるとやって来て夜の看護をしました。

1983年の春、マーガレットは長時間の勤務とマリーの看病のために、病気になってしまいました。このとき、扶助協会が動き出しました。まずスケジュールを組み、扶助協会の姉妹たちが欠かさず毎日、昼間に訪問して、マーガレットと共に過ごしたのです。私たちはそれまで慈善奉仕を、必要とときにだけ行なう特別なものとみなしていました。しかし今では、毎日の生活の重要な部分となったのです。

### 医師も手の施しようがなくなった

夏の終わりとともに、マリーの容態は悪化していきました。医師もこれ以上手の施しようがなくなると、マリーはホスピス・プログラムを受けられることになりました。ホスピスとは、自宅での死を希望する死期の迫った患者のために、基本的な看護を施す団体で、ボランティアによって組織されているものです。\*ホスピスのボランティアが看護を引き継いだので、扶助協会の姉妹たちは、マリーの家庭での世話係を組織しました。

ホスピスのボランティアたちは初め、扶助協会の姉妹たちがマリーの助けをするので、やりにくそうでした。ホスピスの方々は、死期の迫った病人の友人たちというのは、善意を持ち合わせてはいるものの、往々にして当てにならないことをよく知っていました。私たち扶助協会の姉妹も、ホスピスから来ている婦人たちと働くのはあまり気の進む

ことではありませんでした。この地域では、私たちの教会を、単なる新興宗教の一派としか考えていない人が多く、ボランティアの人々が、私たちの信仰をどう思っているのか気になりました。

ほかに気になることがありました。このワード部の扶助協会は、死に瀕している姉妹の世話を、今まで頼まれたことがなかったということです。これもボランティアの人々が何と言い、どうするか多くの姉妹の気になるところでした。そこで私たちは祈りました。それから集会を開き、緊急時に何をすべきか、また痛み止めの注射はどう打つかなどを姉妹たちに教えたのです。

予定表と首っ引きの日々が始まりました。私たちの前後に当たっている当番のボランティアがだれなのかもわからないことがよくありましたが、マリーの方からいつも私たちに紹介してくれたものです。扶助協会の姉妹とボランティアはまず知り合いになり、そして友人になりました。ホスピスの女性たちは私たちの多忙なのに驚いたようでした。姉妹たちの大半はまだ若くて、幼い子供をたくさん抱えているのですが、それでもやって来てマリーと一緒に時を過ごすからです。ボランティアは次第に私たちを賞賛するようになっていました。

数カ月後、マリーの容態は急変し、昏睡状態に陥りました。医師である私たちの監督がマリーの家族に連絡しました。扶助協会の姉妹とボランティアは、共にマリーの枕もとに集まると彼女に別れを告げ、彼女への愛がどんなに深くなっているかを語りかけました。彼女を見取るための準備をする私たちには、感極まるひとときでした。

しかしマリーは死にませんでした。2日後、彼女は昏睡状態から覚めました。彼女の口からは、まだ行く準備ができていないという言葉が聞こえてきました。

ホスピスのボランティアの中には怒りと不満を表わす人がいて、扶助協会の姉妹との話し合いの中で、次のような疑問を投げかけました。「なぜ神様は、彼女がこんなにも苦しみ続けるのを許されるのですか。マリーの偉大な精神と生命がむしばまれて

愛



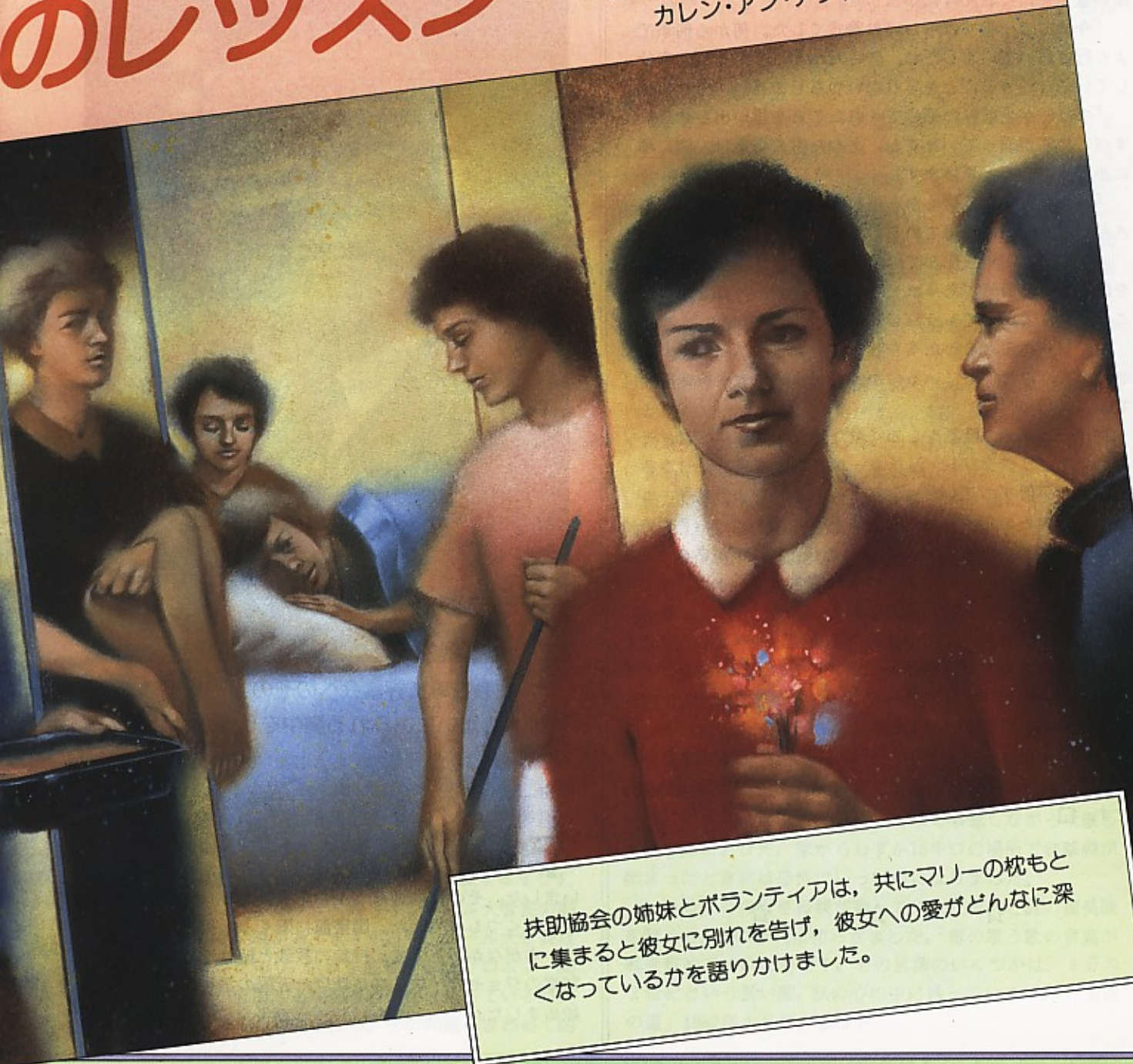
いくのを見つめながら、どうしてあなたたちはそんなに冷静でいられるの？」と。

これは救いの計画について説明する絶好の機会となりました。「なぜ私たちはここにいるのか。人生の目的とは。また永遠の時の流れの中で私たちの前にどのような約束があるのか。」ホスピスのボランティアたちは、私たちの説明を

じっと座って聞いていました。死は終わりではなく、まさに新たな始まりであることを説明しました。話し合いは、思慮深く霊的な雰囲気の中で終わりました。

# のレッスン

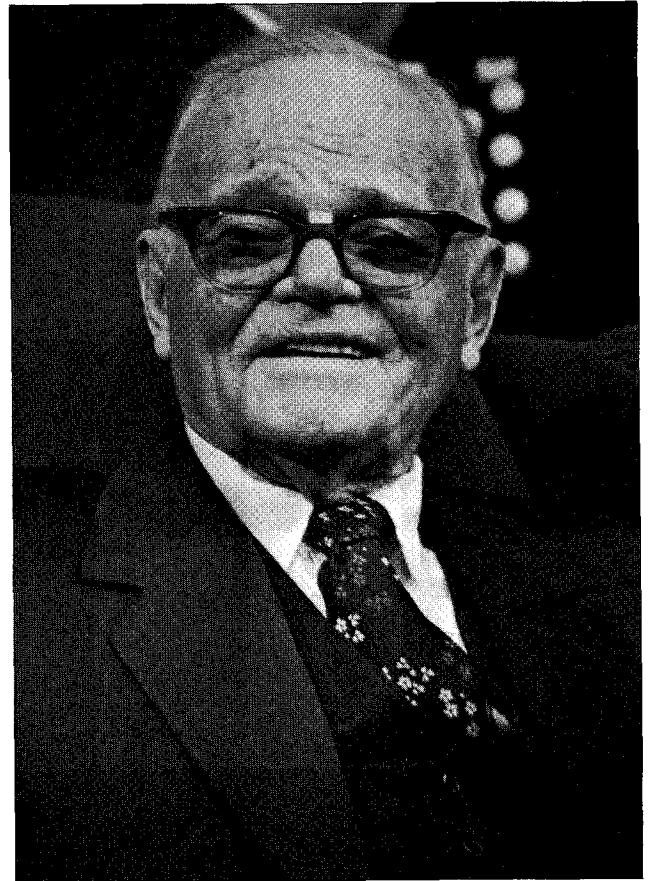
ガンに生命を脅かされながらも、マリーは看護してくれた人々の教師となり、宣教師となった。  
カレン・アン・アンダーソン



扶助協会の姉妹とボランティアは、共にマリーの枕もとに集まると彼女に別れを告げ、彼女への愛がどんなに深くなっているかを語りかけました。

# 十二使徒定員会会長

マービン・K・ガードナー



教会を導く評議会へのその霊的貢献は、  
神への思いにあふれる胸中をうかがわせます

**年** 若い宣教師が、午前中に伝道本部の床を磨き、衣類を洗濯し、ワイシャツにアイロンをかけ、靴下を繕いました。その日は週に一度の休養日だったので大学図書館へ行くつもりでした。図書館に着くと、書棚に特別読みたい本がなかったので、持参の教義と聖約を取り出し、第76章のジョセフ・スミスが受けた天国の示現の箇所を読み始めました。

## 「しばらくのお別れ」

数カ月後、14週間もの絶え間ない看病の末に、マリーはとうとう息を引き取りました。彼女の葬儀は悲嘆に暮れるものではありませんでした。マリーがそう望まなかったからです。その代わり、きっともう1度彼女に会えるという確信を胸に、静かで平安な「しばらくの別れ」の会でした。

葬儀の参列者の大半は末日聖徒ではありませんでした。ほとんどがホスピスのボランティアで、ほかは大学の関係者でした。マリーの要望により福音の原則が説明されると、参列者はじっと聞き入っていました。葬儀の後、私は興味深い意見をたくさん耳にしました。

「今までで一番すばらしいお葬式でした。何から何までよく行き届いていましたね。皆さんがすべて無報酬で奉仕していらっしゃることを忘れないうもりです。」

「マリーが生前私に話してくれたことを思い出しました。すべてに筋が通っていますね。あなた方の信条は、実に理にかなっていると思います。」

「あなた方のように心から信じられたらと思います。皆さんが確かな慰めを得ているのも不思議ではないですね。」

「この町に何年も住んでいますが、あなた方の教会に足を踏み入れる勇気がありませんでした。きょうここに来ることができて、とてもうれしく思います。」

「マリーからもらった本を読んでいます。私たちがどこから来て、なぜここにいるのか、という話は大変興味深いですね。」

マリーは自分の世話をしてくれた非教会員すべてに、モルモン経とリグランド・リチャーズ長老の著書「奇しきみわざ」を1冊ずつプレゼントし、両方を読むようにチャレンジしていたのです。彼女は友人たちに次のような言葉を残しています。「私が逝ってしまった後、だれかがあなたを訪ねて行ってそれらの本について説明するでしょう。そしてあなたの質問にお答えすることでしょう。」

マリーの闘病中、75人が援助の手を差し伸べました。そのうち扶助協会の姉妹が45人、ホスピスのボランティアが22人、そしてパートタイマーで雇った人が8人でした。マリーの看病を通じて、たくさんの方が友人になりました。さあ今度は私たちの番です。主が収穫することができるように、それらの種すなわち彼女の友人たちを養い育てるのです。□

☆ ☆ ☆

# マリオン・G・ロムニー

「この人がひざまずくところではすべてが聖い」

彼は時のたつのも忘れるほど一心に読みふけり、ようやく図書館を出たときには、もう夜になっていました。停留所に向かって芝生を横切りながら、空を仰ぐと、「月は出ていなかったが、空は澄みわたって」いました。「南半球の夜空に南十字星やほかの星がこれまでになく威光を放って見えました。心を奪われて見つめていると、その星の彼方に図書館で読んだものが見えるような気がしました。私はどのように芝生を横切ったかまったく覚えていません。」

ロムニー長老は、1965年にこの経験を再び語って、こう言っています。「43年前、オーストラリアのシドニーでのあの土曜日の夜の経験以来、私は現世での誕生から死までの狭い視野しか見えないような眼鏡で人生を眺めたことはありません。私はその夜以来、大きな決断を下すときには、啓示された真理に関する私の知識でそれを試してから行うようにしています。私がこの方法を取らなかったという記憶はありません。」(ブリガム・ヤング大学における講話、1965年5月27日)

## 神のみこころを知って

この大切な経験から、十二使徒定員会会長に召されたマリオン・G・ロムニー長老は明敏な判断力と洞察力を得続けてきました。ロムニー長老が啓示された真理をこよなく愛していることは、これまでの奉仕の人生の中で語られてきた数々の説教によく示されています。神のみこころに照らして判断を下す能力は、その働きを証明する刻印でもあります。

現在ロムニー長老は健康がすぐれず、教会業務から遠ざかっているため、ハワード・W・ハンター長老が十二使徒定員会会長代理を務めています。しかし、その靈感を通じて王国の教義に対する理解を深められた多くの末日聖徒にとって、ロムニー長老は、変わらぬ指導者、愛する友です。

ロムニー長老はスペンサー・W・キンボール大管長の副管長として働いた経験がありますが、キンボール大管長はロムニー長老の賜を知り、信頼を寄せました。「ロムニー副管長は、私たちが直面する問題を自分が熟知している聖典に照らし合わせて考える力を持ち、その問題をきわめて的

確に聖句と関連づけられます。」(地区代表セミナー、1979年10月5日)

## メキシコでの出生

マリオン・G・ロムニーの霊的鍛練は早くから始まりました。彼が1897年9月19日メキシコのコロニア・ファレスで誕生したその8日後に、父親のジョージ・S・ロムニーは合衆国北部へ2年間の伝道に出発しています。マリオンの母、アーテメジア・レッド・ロムニーは、洗濯や編み物をして家計を支え、伝道する夫に送金しました。息子は奉仕と犠牲の祝福を学びました。

父親の留守中に、マリオンは大病を患ったことがあります。そのとき、ほとんどの人はもうだめだと思いました。母親に頼まれて神権者が祝福を施しましたが、この赤ん坊は助かって大きな使命を果たす、と彼らが約束すると、すぐに病気は快復し始めました。母親はマリオンに、主の力によって癒されたのだと教えました。

彼女は息子に、祈ることと標準聖典を大切にすることを教えました。末日聖徒の入植地にはテキストがわずかしかなかったので、子供たちは聖典から直接学ぶのが普通でした。マリオンは祝福師の祝福の中で、忠実であるなら、「聖典を説くことにおいて大いなる者となる」と約束されました。

## 革命のただ中で

少年は、主イエス・キリストの愛を通じて、騒乱と悪に満ちた世の中にも平安が見いだせることを知りました。1912年に入植者たちは革命の渦に巻き込まれました。少年のマリオンは、片田舎にもやって来て略奪しながら攻撃し合う軍隊におびえ、家からわずか16キロの場所で銃撃戦が始まったときには恐怖でいっぱいになりました。

しかし、そのとき母親が歌ってくれた信仰と証の讚美歌を聞くと、その恐れは和らぎました。「母の歌う歌の言葉が私を慰めてくれたのです。その言葉のいくつかは、3分の2世紀という長い間、私の心の中に残っています。」(「聖徒の道」1982年1月号、p.2)

宣教師として、1920年オーストラリアのシドニーに到着した23歳のロムニー長老(下)。1972年から1985年まで大管長会の一員として働いた(右)

右ページ：11年間ソルトレークシティの弁護士であった(左)。後にエズラ・タフト・ベンソン長老(中央)と共に、20年以上にわたり十二使徒定員会で働く。十二使徒定員会補助として、ハロルド・B・リー長老、ヘンリー・D・モイル長老と共に、教会福祉委員会で働く(上段右)。1953年、モルモン開拓者記念橋奉獻のため、教会幹部夫妻を伴い、ネブラスカ州オアハに赴く(下段右)



マリオンは悲惨な体験から、主は惨禍の中であってさえ、聖徒たちを見守りたもうことを知りました。14歳になったマリオンの家族は、メキシコ革命の戦場から逃れようと家族全員の所持品をたった1個のトランクに詰めて家を後にしたとき、革命軍の兵士ふたりに制止され、有り金全部を取られて銃口を向けられました。

ロムニー長老はそのときのことをこう語っています。「天父に命を助けてくださいと祈りました。そのメキシコ人たちはどうしたわけか引き金を引かず、私たちは鉄道の駅まで無事にたどり着きました。このとき命を守ってくださった主に対して、感謝を忘れたことはありません。またこの経験は、主にその感謝を示すような生活をしようという望みを、私に与えてくれました。」(「インストラクター」1943年7月号、p.401)

### み守りを受けて

後年大管長会に召されたロムニー長老は、聖霊を逆境の際の道案内とするよう、教会員に勧めました。「聖霊を受け、その導きに従うならば、この混乱した時代であって守られ、支えられる人々の中に加えられるでしょう。これは皆さん方もそうです。そして聖霊の導きに従った生活をするすべての人々がその中に加えられるのです。『もし汝らに備えあらば怖るることなからん。』まさにそのとおりです。」(「聖徒の道」1982年1月号、p.6)

ロムニー長老は、霊的な備えだけでなく、物質的な備えということについても、よく説教のテーマに取りあげました。彼は過去数十年にわたって、教会福祉プログラムの重鎮でもありました。1930年代中頃、若くして監督の職にあったロムニー長老は、教会幹部が聖徒たちに食料や生活必需品の貯蔵を勧めるのを聞いて、すぐ自宅と集会所の地下



に棚を作り、衣料や食料を集めました。後にステーキ部長になると、ステーキ部や地区の規模で行なわれる新プログラムの原型とも言うべき計画を展開しました。

1941年教会幹部に召されると、教会福祉プログラム実務ディレクター補佐となり、18年間その任にありました。1959年から1963年には福祉部の本部長を務めています。その後大管長会に加わってからも、総大会の福祉部会で常時話をし、福祉活動の指導を続けました。

トーマス・S・モンソン副管長は、若いころ監督であったときに、マリオン・G・ロムニー長老から多くを教えられて教会福祉の原則を学んだことを述懐しています。「ロムニー兄弟も私たちのステーキ部や地区をしばしば訪れました。ある晩、……手引きから福祉の原則について教え、質疑応答に入りました。そのときひとりの兄弟が、『あなたは手引きの中に書かれていることを何でも知っておられ

るようですが、それはなぜですか』と尋ねました。ロムニー長老は目を輝かせ、口に笑みを浮かべて答えました。『私が書いたからです!』(『聖徒の道』1981年4月号, p.169)

### 主の方法

ロムニー長老のこの奉仕は、少年時代に体得した原則の延長線上にあります。長年彼と働きを共にしたハロルド・B・リー長老は、次のように語っています。「不幸な人たちの問題を鋭敏に我が事のように察する理解力が、その厳格で個性的な人柄を温かいものにしてている。マリオン・G・ロムニーがメキシコから逃れたときの体験、その後の歳月を通して、全能者の絶えざるみ守りのもとに、鋭利さと穏やかさを併せ持つ器に育てあげられたことを否定できる者はだれもいない。それは、キリストの教えの『純粹な信仰』の概念が人の教えによりほとんどなしくずしにされた時代



1951年、十二使徒定員会に召された当時の家族。  
 (前列)ロムニー長老、孫娘キャサリン、ロムニー姉妹、(後列左から)リチャード・J・ロムニー、ジョアン夫人、ジョージ・J・ロムニー

にあって、彼が神の召しの中で、聖徒を守るための主の方法を明確に指し示す者となるためであった。」(「扶助協会誌」1951年12月号、p.803)

マリオン・G・ロムニーは、自分を二の次にすることの意味を、また勤勉に働くことの意味をよく知っていました。メキシコでは父親を助けて家族全員の食料を生産し、カリフォルニアでは1年間休学して大工仕事を見習い、家計を支えました。アイダホの農場へ移ると、毎学年度、就学を遅く修了を早くして農作業を手伝いました。父親のユタ大学での学位取得のため、一家がソルトレークシティーへ引っ越したときには、再び1年休学し、家計を助けて働きました。大学時代と法律大学院時代には、仕事を本業として働いています。彼は、常に什分の一を納め、父ジョージ・S・ロムニーと兄ガスケルの家族の収入が合わせてひと月80ドルにもならなかった1917年の冬でさえ、完全な什分の一を納めています。什分の一の8ドルを監督のところへ持って行くのは若いマリオンの仕事でした。温かい服を持たない彼にとって、それはつらいことでした。

### 奉仕の決意をもって

家族の経済状態から見て、伝道に出られる見込みはわずかでした。しかしマリオンは、メルビン・J・バラード長老がステーキ部大会で話すのを聞き、たとえスポーツ奨学金が受けられなくなっても、伝道に出ようと決心しました。伝道中に蓄えは底をつき、銀行から借金をし、帰還後にローンの返済をしました。

彼はそれと同じ決意で学問をしました。1917年に家族はアイダホ州レックスバークへ移りました。そこでリックス・アカデミーの校長に奉職した父親は、同学校の短期大学への昇格に努めました。フットボール、バスケットボールの主将であったマリオンは1920年に卒業し、ユタ大学から1926年に理学士、1932年に法学士の学位を受けています。1975年、プリガム・ヤング大学は彼に名誉法学博士号を贈りました。

自分や家族の暮らしを少しでも楽にしようと懸命に働き、伝道や勉学のために努力する中で、マリオン・G・ロムニーは儉約と自立、主への信頼の原則を肌で学びました。「落胆はしませんでした。あの時代、人々は独立独歩を誇りとしていましたから、実際に自立する人たちは周囲から認められ、尊敬もされました。

自分が自立、儉約、勤勉という環境の中で育ったことを、いつも感謝しています」と、彼は語っています。(プリガム・ヤング大学における講話、1963年3月13日、p.2)

### 金髪と笑顔

アイダ・ジェンセンがマリオン・G・ロムニーと共に人生を歩むようになったのは、マリオンの父親が彼女をリックス・アカデミーの教師に雇ったことがそもそもの発端でした。彼女がロムニー家を初めて訪れた日に、マリオンは風邪のため別室にひきこもっていたので、対面こそしませんでした。彼がそのときアイダの姿を見ていたことは確かです。「金髪と笑顔の彼女を見ました。あのとき以来、ほかに心をひかれた女性はいません。」(「チャーチニュース」1973年12月15日、p.5)マリオンは伝道を終えて、ふたりは共に学業に打ち込みました。アイダはプリガム・ヤング大学卒業生総代に選ばれたほどです。そして、ふたりは1924年9月12日ソルトレーク神殿で結婚しました。マリオンが初めてアイダに出会ってから6年後のことです。

ロムニー長老は、彼女の生前にこう語りました。「妻は私の一生を通じて、私の支えであり模範でもありました。私が落胆したとき、彼女は私を励まし、自信を持たせてくれました。そのおかげでこれまでやって来られたのです。」



（「チャーチニュース」1972年7月15日， p.7）

新婚時代，経済的には楽な生活ではありませんでしたが，仲の良いふたりはソルトレーク劇場へよく出かけました。しかしふたり分のチケットが買えないこともあり，バス賃などはないのが普通でした。

「よくふたりで一緒に笑います。夫は私の一番大事な人です」と，1975年にロムニー姉妹は言っています。（「聖徒の道」1977年1月号， p.26）

ロムニー夫妻の仲の良さは，55年の結婚生活を通じて変わりませんでした。1979年にアイダ姉妹を亡くした数日後，ロムニー長老は「アイダがこの世を去ったとき，私は大切なものを失いました」と言い，葬儀ではジェームズ・E・ファウスト長老に「奥さんを大切にしてください。行ける所には必ず一緒に連れて行くようにした方がいいです」と語りかけました。（「聖徒の道」1982年5月号， p.9）

### 悲しみを和らげた信仰

マリオンとアイダは若くして非常な悲しみを経験しました。第一子と第二子をまだ幼い内に失ったのです。しかし信仰がその悲しみを和らげました。マリオンが教会幹部になったときの祝福の中にあるひとつの約束は，彼らに平安を与えてくれました。「汝はわが業を信仰する故に幸福なり。見よ汝は先に……しばしば悩みたり。それにもかかわらず，われは汝と汝の家族に小さき児らに至るまで祝福を与えん。汝ら皆信じて真理を覚り，わが教会にありて汝と一つになるべき時来るなり。」（「聖徒の道」1973年6月号， p.263）

夫妻はその後，現在カリフォルニア州ウインタース在住のリチャード・J，およびソルトレークシティのジョージ・Jというふたりの子息に恵まれ，8人の孫と9人のひ孫を得ました。

ジョージの夫人ジョアンは義父を，「いつも実の娘のように私に接して下さるやさしくて心の温かな人」と語っています。

### よつんばいのおじいちゃん

アイダ姉妹は，一緒に過ごした楽しいときのことを話しています。ロムニー長老が毎年クリスマスにはサンタクロースのひげをつけてプレゼントを手渡した時期がありました。アイダ姉妹はクリスマスの終わるのを惜しみ，新年にもう一度孫たちを呼んでまたプレゼントをしていました。「池」をしつらえ，子供たちが糸を投げて，端に結ばれた



1974年，夫人のアイダ・ジェンセン・ロムニー。「私が落胆したとき，彼女は私を励まし，自信を持たせてくれました。そのおかげでこれまでやって来られたのです。」

賞品をもらうのです。おじいちゃんのロムニー長老は，よつんばいになって糸を結びました。

ロムニー家では，息子たちに聖典を愛する心を伝えました。「私は何年も前に自分の子供に読んであげたときのことを覚えている。〔私は子供と〕交代で読んでいた。息子の声は風邪をひいたようにかすれてきたが，最後の章まで読み終えた。そして読み終えるや，こう尋ねてきた。

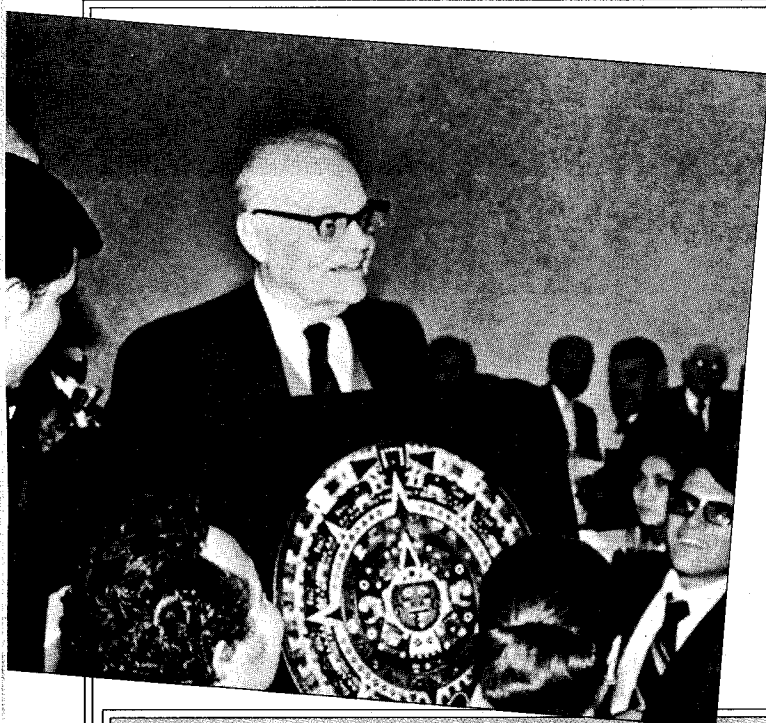
「パパ，パパもモルモン経を読んで泣くことある？」

「あるよ。ときどき主のみたまがモルモン経は正しいと強く証をするので，そのときは泣くよ。」

「そう，じゃ今晚ほくにそれが起こったんだね。」

必ずしもみんながそのような経験をするとはい思わない。しかしこのように感じる人はたくさんいる。私は，この書物は私たちが読み，従うために主が与えてくださったということをよく知っている。そして，これほど私たちが主のみたまに近づけてくれるものはない。どうか，この書物を読んでいただきたい。」（「大会報告」1949年4月， p.41）

ロムニー夫妻は，長年にわたってすぐ近所に住む息子ジョージ・Jの家族とよく家庭の夕べを一緒にしました。「一



メキシコ生まれのロムニー長老は、後にメキシコにおける伝道活動を管理し、1961年、スペイン語圏では最初のステーキ部を組織した。1977年、メキシコでの地域大会で聖徒たちに向けて語るロムニー長老

緒に聖典を読みました。お父様のそばにいて福音の話をするとき、必ず何かが学べるのです」と、ジョアンは言います。

主のみこころを知り、それに信頼しようと努めるロムニー長老は、確かに家族や教会に与えるものをたくさん持っていました。あるとき、このように話しています。「結婚して間もないころ、妻と私はある特別な祝福を強く求めています。そして、それが得られるように断食と祈りを始めました。……ところが何度も断食し、熱心に祈っても、望ましい答えが得られないままに、年月が過ぎていきました。やがて私たちはひとつの結論に達しました。私たちは、自分たちで心に決めていたとおりのものを受けすることにしか信仰と祈りを向けていなかったのですが、そのことをよく理解していなかったのです。……自分の望みや願いを語るのと同じ真剣さをもって『みこころならば』と祈る姿勢が必要だったのです。そのような姿勢では祝福は得られないなどと心配する必要はありません。」(ソルトレーク・インスティテュートにおける講話、1974年10月18日、pp.8-9)

マリオン・G・ロムニーは、ソルトレークシティで11年間法律関係の仕事をし、郡検事補、地方検事補、市検事補、州議会議員を務めました。

### 初めての十二使徒補助

1941年4月6日に、彼は最初の十二使徒定員会補助に召されました。それから10年後の1951年10月11日には、使徒に聖任されました。1972年7月7日、ハロルド・B・リー大管長の第二副管長として支持され、1973年12月30日には、スペンサー・W・キンボール大管長のもとで再び同じ職に召されました。1982年12月2日にキンボール大管長を補佐する第一副管長、1985年11月10日には十二使徒定員会会長となりました。

予言者、聖見者、啓示を受くる者として34年間支持を受けてきたロムニー長老は、救い主を力強く証します。彼は教会員に向けてこう話したことがあります。「私たちは主をただ信じるのではなく、主を知っているのです。主は私たちの救いの岩、この教会の頭です。……主が生きておられること、主が生きておられるゆえに私たちもまた生きるということを、私は知っています。」(ミシガン州アナーバーにおける地域大会での話、1980年9月21日、pp.7-8)

「私たちのために大きな代価を支払ってくださった主イエス・キリストに対して、私たちはいくら感謝しても感謝しきれものではありません。」(「聖徒の道」1983年1月号、p.89)

ロムニー長老は初めて教会幹部に召されたとき、自分にその資格と能力があるかと心配しました。「しかしそれでも、主は私を役に立つ僕にしてくださいと信じ、自分が一生懸命努めるなら主は残りを補ってくださいののだいつも考えながら、事に取り組みました。」(「チャーチニュース」1972年7月15日、p.7)

長い年月、彼は実によく働いてきました。通常5時か5時半に起床し、散歩か体操をして、事務所には30分前に着き、聖典を読みました。ときどき紙袋の弁当を持参しました。1日に11時間働くこともよくありました。

### スペイン語圏初のステーキ部

十二使徒であるロムニー長老には、メキシコ、ヨーロッパ、南アフリカ、およびアジアの伝道活動の管理を含め、数多くの仕事がありました。特に印象深いものは、1961年メキシコで、スペイン語圏初のステーキ部を組織したことです。

ホームティーチング委員会や家庭の夕べ委員会の委員長も務めました。誠実なロムニー長老は、説いた原則を生活に取り入れました。「私は監督に、ホームティーチングを割り当ててくださるよう頼みました。いつもそうしていました。事務所から帰宅して疲れきっていても、担当家族を訪

問したあとは心が安らぎ、活気づけられるのを感じています。教会の活動の中で、ホームティーチングが一番の楽しみです。

ロムニー姉妹と私は、月曜日に家庭の夕べをします。聖典を読んで話し合い、家庭の夕べのテキストを使います。」（「チャーチニュース」1972年7月15日、p.7）

ロムニー長老の誠実さと従順は、だれしものが認めるところです。ハロルド・B・リー長老は、かつてこのように述べました。「彼にとって誠実とは、単に教会幹部の勧告を盲目的に受け入れることではなく、それ以上に、勧告が靈感によるもので、無条件に受け入れられるものであるとの証を自分で受ける責任を意味するのです。」（「扶助協会誌」1951年12月号、p.804）

### さわやかなユーモアのセンス

ロムニー長老は勤勉な反面、当意即妙のさわやかなユーモア感覚を持っています。十二使徒に支持されたときの言葉です。「私の心は揺れに揺れました。私のこんなに小さな体の中にこんなに大きな嵐が起きるとは思いもよりませんでしたよ。」それからまじめな顔で言いました。「これまで以上に主の助けが必要だと思えます。」

後に話の中で、レッド家とロムニー家の家系に対する感謝を、ユーモラスに語っています。「どちらも主張するわけです。レッド家は私をロムニーだと、そしてロムニー家は私がレッドだと。しかし私はこの両方を誇りにしていません。」（「総大会」1951年10月）

後年ロムニー長老は年を取ることにについてよく冗談を言っています。ブリガム・ヤング大学の聴衆に向かってこう語りました。「かつては皆さんの側に座って話を聞いたことがあり、人間というものもわかっていますので、皆さんの中に『このじいさんはいつまで長話をするのか』と考える人があったとて、少しも驚きはしません。」（ブリガム・ヤング大学における講話、1964年2月11日、p.2）

老齢のため体力は衰えても、マリオン・G・ロムニーの証は依然力強さを失いません。スペンサー・W・キンボール大管長は、教会を導く評議会へのロムニー長老の霊的貢献をたたえて、こう語っています。

「彼はすばらしい人物であり、その胸には神への思いがあふれています。……私たちは彼が祈るとき、主が彼のそば近くにおられることに何の疑いも抱いておりません。彼の祈りには熱意が込められています。その声には彼の思いのほどがよく表われ、彼の熱心な祈りの言葉を聞けば、主がそれを聞いておられることがよくわかります。彼の誠実な思いが聞く者の心に触れ、ロムニー副管長が祈るとき、自分たちも天父のみそば近くにいるのだと感じるのです。……

この人がひざまずくところではすべてが聖いのです。」（「エンサイン」1972年11月号、pp.22, 26-27）

オーストラリアで、青年宣教師が天を仰いで神への愛に満たされたあの静かな夜から、60年余りが過ぎました。マリオン・G・ロムニーの人生と奉仕は、あのときに得た永遠のビジョンに向けて彼がまい進してきたことを証しています。□

## 新製品のご案内

### 「神殿に参入する備え」

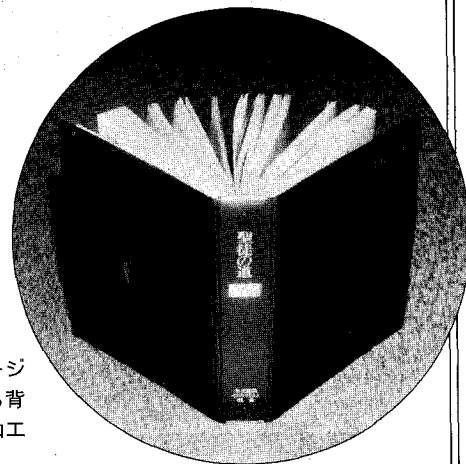
フィルムストリップとカセットテープ 時間13分  
ストックナンバー：VVOF3084JA 1,900円

初めて神殿に入る人の準備のために用いる。神殿の業の歴史と儀式の説明、また、主の宮居に入るために必要な資格と準備について概説する。

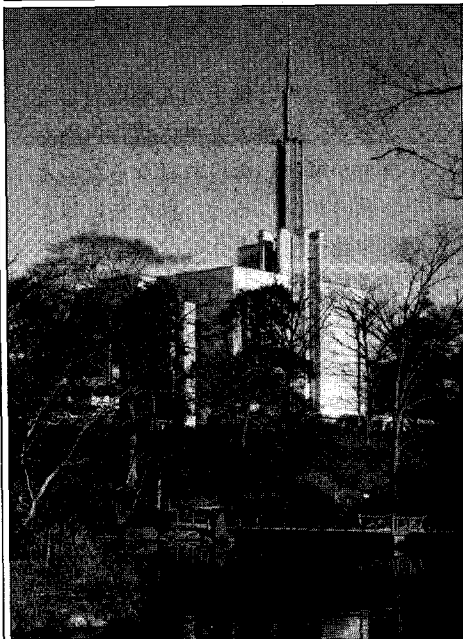
### 「聖徒の道」専用ファイル

〈改装丁〉●今年から本文が64ページ（ローカルページ8頁、子供のページ8頁を含む）に増えたことから背幅が5ミリ広げられ、ファイルの表面もビニール加工を施して今までのものよりも丈夫になりました。

●1年分（12冊）をとり込めます。●機関誌本体をいれずにスピーディーな着脱が可能です。



1冊400円  
（整理・保存に便利です）



# 仕えるなら

# 愛しなさい

スーザン・ハインズワース

**今**は集会所として使われていない教会の建物の地下に、その教室はありました。中央に長いテーブルがひとつといすが数脚置いてありますが、部屋は広くてがらんとしていました。天井に取りつけられた蛍光灯の光が色あせたグリーンの壁を照らし出し、部屋の隅では暖房用のラジエーターがジュージューとやかましい音をたてています。部屋は寒くないのに、心配と緊張で体が震えて、まだ外の雪の中にいるような感じでした。

状況そのものは驚くほどのことではありません。家を追われて地球の裏側からやって来た、まだ新しい国の言葉を話せない難民たちを教えるのです。

難民の人々を恐れているわけではありません。実に親しみにあふれた好意的な生徒でした。しかし、あまりにも多くの助けを必要としていました。戦争の恐怖に痛めつけられ、住み慣れた生活環境を追われ、ほとんど見知らぬ世界へやって来たのです。それに比べたら、私が今まで経験してきたことなど、ちっぽけに思えました。私には彼らを助ける力がないのではと不安だったのです。

私は今までにそのような恐れを何度も感じてきました。たとえば、訪問教師を受け入れようとしないう、無愛想で怒りっぽい女性の部屋をノックするときがそうでした。しかしその女性は不幸な生活の中で福音による癒しの力を求めて悲痛な叫びをあげていたのでした。また、家庭生活でつらい経験をして福音の喜びを見失ってしまった隣人にも、同じような恐れを感じました。私の家族が長い間病気で苦しんでいたときもそうでした。

奉仕しようとする私の努力に幾度となく水を差した恐れや不安は、次にあげる3つの大切な原則を認識したときに消えてしまいました。(1)私は人の問題を解決することはできない。(2)無条件で人を愛することは、最善の奉仕の方法である。(3)もしほかの人に祝福をもたらそうとするなら、無条件の愛の唯一の源であられるキリストに頼らなければならない。

## 私は人の問題を解決することはできない

地上での生活は、自由意志の原則に基づいています。神は私たちが多くの方法で試されることを許されました。そして私たちは、それらの試しにどう対処するか、自分で選ぶことを許されているのです。私たちは自分の人生に対して究極の責任を負っています。

リーハイは子供たちに、この原則を次のように教えました。

「そして時が満ちると、人間の始祖の墮落の結果から人間を贖うためにメシヤが来りたもう。人間たちはその始祖の墮落の結果から贖われるから、すでに永久に自由となって善悪を弁え……自分の心のままに行いほかから強いられることはない。

それであるから、人はみな現世に於て自由であり、およそ人間のためになるものは何でも与えられる。そして万人に為したもうメシヤの大いなる賢い仲裁によって自由と永遠の生命とを選ぶか、……(悪魔の)束縛と力とに由って定まる束縛と死とを選ぶか、これは全く人間の自由である。」(II ニーフай 2 : 26-27)

人に仕えて教えるとき、多くの人は相手の人生に対して余計な責任まで負おうとします。周囲の人々に悲しみをもたらす問題はすべて、私たちが解決しなければならないと思ってしまうのです。この思いが高じると、私たちにどうにもならない問題にまで神経を使うようになります。さらに、相手が選ばなかった解決方法を押つけようとするかもしれません。

今ではよくわかっているのですが、生徒たちを取り巻く状況の多くは、私の力で変えることはできません。私には、彼らを故郷から追い出した戦争を変える力はありません。彼らが生活を立て直し、心の傷を癒すのに数年かかるという事実を変えることもできません。そして、新しい国で気持ちよく幸せに暮らすために必要なものをすべて与えることなど無理なのです。

こうした考えは当然のことに思えますが、私には受け入れ難いものでした。彼らを少しなりとも幸せにしてあげられると信じたかったのです。後になってわかったのですが、それは可能でした。しかし、彼らに代わって問題を解決しあげるといふ方法ではだめなのです。

### 無条件の愛は最善の奉仕である

どうしたら最善の奉仕ができるでしょうか。私がそれを本当に理解したのは、主が私をどのように助けてくださるか考えたときです。私が尋ね求めると、主はときどき導きを与えてくださいます。しかしそれ以上に、主はその愛で私を祝福してください。私のあるがままを愛し、受け入れていることを、繰り返し繰り返し教えてください。私は不完全ですが、主は現実の私よりもはるかに優れた私の可能性を見て、そこへ到達できるように助けてくださいます。

神の愛は、私の人生で最も大いなる祝福です。しかし私自身の奉仕について考えてみると、人を助ける方法として、

このような愛を与えることがあまり重視されていないのです。無条件に人を愛するよりも、人の問題を解決する方に焦点を当ててきたのです。

マザー・テレサは、インドの極貧にあえぐ人々への働きに対して、ノーベル平和賞を受賞した修道女です。彼女は、厳しい問題を抱えた人々の生活の中に愛がもたらす癒しの力をよく知っています。神の愛を分かち合うことが奉仕の最善の方法であると感じているのです。マザー・テレサは、



難民である生徒たちを「助けるべき」人ではなく「愛すべき」人として考え始めると、私の不安は消えていきました。

重い病気でその大半が生きる望みを失っている人々をどのように助けるか、次のように語っています。

「何よりもまず、彼らに自分が必要とされていると感じさせ、彼らを本当に愛して必要としている人がいることを知らせたいと思っています。たとえ数時間の命でも、人間の愛と神の愛を知ってほしいのです。自分が神の子であり、決して忘れられていないこと、愛と関心を示されていることを彼らにも知ってほしいのです。」(マルコム・マガリッジ「神にとってのわしきもの：カルカッタのマザー・テレサ」 p.68)

難民である生徒たちを「助けるべき」人ではなく「愛すべき」人として考え始めると、私の不安は消えていきました。私はこの奉仕に新たな力と喜びを見いだしました。そのうえ、以前よりも良い働きをしているという実感がすぐにわいてきました。生徒たちは私への信頼を深め、ひとりではできないことを行なうときに助けを求めてくるようになりました。もし彼らが私に愛されていると感じなかったら、このような機会は訪れなかったでしょう。

ほかにも同じような経験をしました。私が訪問教師として割り当てられた女性は、気心が通じて一緒に教会に行くまでになりました。また不幸な家庭生活を送っていた隣人も、私や友人たちと一緒にいることをとても喜び、家族か

らの好ましくない影響力に立ち向かうようになりました。

### 私たちはキリストに頼らなければならない

私は救い主のように人を愛そうと努力してきましたが、いつもうまくいったわけではありません。自分自身や相手の不完全さからくる抑圧感や挫折感にじっと耐えられるほど、強くはないからです。もし私たちが自分の力だけに頼るなら、あるいは、たとえ自分の力を発揮できるように神に助けを願うとしても、人々に祝福をもたらすことはできないでしょう。キリストの愛が私たちの身と霊に満ちるようにしなければならぬのです。そうすれば、自分の力の及ばない、高く強い力を具えた器となることができ

ます。救い主は次のように教えておられます。「わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながってしよう。枝がぶどうの木につながってなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながってなければ実を結ぶことはできない。

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからであ



る。」(ヨハネ15：4-5)

この聖句を読んだとき、私はぶどうの木から折り取られた枝を思い浮かべました。枝はすぐに枯れてしまい、もはや実を結ぶことはありません。生命を支えるぶどうの木から離れては、生きていられないからです。同じように、もし私たちがキリストから生命を得ていなければ、たとえすぐにその結果が現われなくても、枝が物理的に死んだように、私たちは霊的に死んでいくのです。そして、奉仕の実を結ぶことはできません。なぜなら「わたしから離れては、あなたがたは何一つできないから」です。しかし、キリストにより頼み、生命を与える主の愛と力を身と霊に満たすならば、大いなる約束が与えられます。キリストは次のように続けておられます。

「あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたにとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。

父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。

もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにいるのである。」(ヨハネ15：7-10)

毎朝、へりくだった心で信仰をもって神に近づき、私の

身と霊を神の愛で満たしてくださるように願うならば、豊かな祝福を受けることがわかりました。私はもっと人々のために働き、自分の至らなさを恐れることなく奉仕し、神の助けがなければ不可能な方法で祝福をもたらすことができます。小さな経験ですが、私は「主の愛のうちにいる」ことを学んだのです。

人を助ける最善の方法は無条件で愛することだとわかってから、奉仕しようとするときに新しい喜びと力がわいてくるようになりました。人々に祝福をもたらす愛を求めてさらに完全に主に頼るとき、私は大いなる救いのみ業の一端を以前に増して強く感じます。そして、主のすべての子供の中にはっきりと主の恵みを見いだして喜んでいるのです。□

人を助ける最善の方法は無条件で愛することだとわかってから、奉仕しようとするときに新しい喜びと力がわいてくるようになりました。



# 「一方通行ではだめです」

七十人第一定員会会長会  
W・グラント・バンガーター

**世**界中のすべての人が、末日聖徒イエス・キリスト教会を好意的な目で見ているわけではありません。事実、あるグループの人々は、この教会の会員がほとんど望みのない宗教に属していると思っています。また、世の中には、末日聖徒を悪魔の力の代表のように思い込んでいる人々や、私たちの宗教をなくすことが神に仕えることであると考えている人がいるのです。聖典にはこう記されています。「人々はあなたがたを会堂から追い出すであろう。更にあなたがたを殺す者がみな、それによって自分たちは神に仕えているのだと思う時が来るであろう。」(ヨハネ16:2)

もちろん、正しい理解を示している人も大勢います。そのような人々は、まことの末日聖徒が選り抜きの民で見習う価値があり、世の善のための力強い軍勢であると認めています。しかし今日でも、私たちが強烈な批判やあざけり、公然たる迫害の対象になっていることは事実です。ジョセフ・スミスの時代もまったく同じでした。私の子供のころもそうでした。今日でもそうです。こうした真っ向からの反対は今後も続くと思えます。

では、そのような敵意にどう対処すればよいのでしょうか。反論やあざけり、あるいは憎悪の言葉にどのように答えればよいのでしょうか。どんな方法で、私たちのことを説明できるのでしょうか。何か良い答えがあるのでしょうか。

私が皆さんにお伝えしたいのは、適切な答えがあるということです。それらは力強く効果的で、教会に対する理解を深めさせ、最終的には私たちの証する真理へ人々を改宗させるものです。私たちはほかの人々が自分になることだけに關心を示すわけではありません。私たちの大いなる目的は、人々が神の示された計画を理解し、それに従って生活できるように助けをすることです。

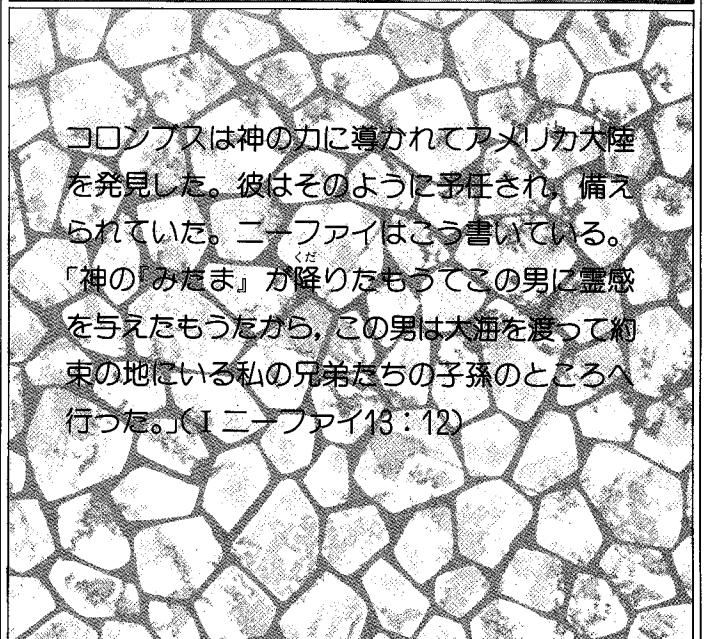
## ほかの宗教を持つ人々を尊敬する

数年前、ジョーダン・リバー神殿のオープンハウスで、ゴードン・B・ヒンクレイ副管長は、聖職者のグループを迎えてあいさつをしました。まず、彼らを来賓として歓迎し、人々を善へと導く職務にあることに感謝してから、質問を受けました。その内の2、3人は、温かく好意的に迎えられた来賓としての立場をわきまえず、激しい敵対的な質問をしました。批判の主旨は、ジョセフ・スミスの証の中の記述、すなわち天父と御子にまみえたときに彼らのような宗教指導者がことごとく誤っている(ジョセフ・スミス2:19参照)と告げられたことについて、その根拠を説明するように迫るものでした。ヒンクレイ副管長は、主はそのような言われなかったと答えました。

この質問についてよく考えてみると、次の疑問がわいてきます。私たちは、ほかの教会の聖職者たちが間違いだらけだと本当に信じているのでしょうか。もちろん違います。ジョセフ・スミスも確かに、そんなことを言おうとしたのではありません。その一節を注意して読んでみると、主イエス・キリストは予言者ジョセフ・スミスが住んでいた地域で、正しい教会について言い争いや議論をしていた特定の聖職者たちだけを指しておられたことがわかります。(ジョセフ・スミスではなく)救い主は、このようにおっしゃっています。「彼らは唇もてわれに近づけど、その心はわれに遠ざかれり。彼らは人の誠命を教えとして教え神を敬う様をすれども神の力を否む。」(ジョセフ・スミス2:19)

ほかの教会にも、時代を問わず、賞賛すべき献身的な人々が大勢いて、永遠の救いに向かって努力し、正直で良心に恥じない奉仕を行なっています。明らかにジョセフ・スミスは、ほかの聖職者たちと温かく、好意的に交わりを持っていました。そして数こそ少ないですが、シドニー・リグドン、ジョン・テイラー、パーレー・P・プラット、そのほかアメリカやイギリスの聖職者たちが教会に加わりまし





コロンブスは神の力に導かれてアメリカ大陸を発見した。彼はそのように予任され、備えられていた。ニューアイはこう書いている。「神の『みたま』が降りたもうてこの男に靈感を与えたもうたから、この男は大海を渡って約束の地にいる私の兄弟たちの子孫のところへ行った。」(I ニューアイ13:12)

た。もちろん、ほかの人たちは教会員にはなりませんでしたが、寛容なクリスチャンらしい態度を身をもって示しました。今日でもそのような人が大勢います。

しかしながら、ジョセフ・スミスが名のある様々な宗教の聖職者や会員から手荒な扱いを受けたことも事実です。彼らはジョセフ・スミスにコールタールを塗りつけ、鳥の羽をつけました。またジョセフや同胞たちを襲い、投獄しました。ついには、人々を煽動し、彼を死に追いやったのです。今でも、似たような方法であざけり、迫害する人々はいますが、彼らの敵意によって私たちの思慮分別や正しい行ないをゆがめることは決してできません。

ほかの教会の聖職者は、神から靈感を受けるのでしょうか。正直で誠実であれば、もちろん受けることができます。彼らは善を行なうのでしょうか。もちろんです。ウィルフォード・ウッドラフは日記の中で、教会について知る前の出来事を次のように記しています。

「その当時、コネチカットの人々は、長老派以外の教会に属したり、ほかの宗教を信じることは邪悪であると信じていた。また、イエスの時代や今日の末日聖徒イエス・キリスト教会にあるような、予言者や使徒、啓示などを信じていなかった。

しかし、コネチカットのロバート・メイソンという名の老人は、ほかの人とは違っていた。古代の人々と同じように、キリスト教会には予言者や使徒、幻、示現、啓示があるべきだと信じていたのである。また主が末日に、いつの時代にも存在した予言者や使徒、すべての賜、権能、祝福などを備えた民と教会をよみがえらせてくださると信じていた。

人々はこの男を老予言者メイソンと呼んだ……。

この予言者は度々祈り、幻や示現を見、末日に起きたと同じ示現を通して、主からたくさんのお示しをされた。」

(「私の日記から」 pp.1-2)

EACH ACCORDING TO THE DICTATES  
OF HIS OWN CONSCIENCE



NORMAN ROCKWELL

われらは、自らの良心に従い、  
全能なる神を礼拝する特権ありと主張す。

また、われらは、すべての人々にこの特権を許し、  
何所なりとも、如何様なりとも、または何なりとも  
これを礼拝することを妨げず。

### (信仰箇条第11条)

ほかの教会の聖職者は、人々のために祝福を神に請い求めることができるのでしょうか。ほとんどの聖職者はできると確信し、そうしています。メソジスト教徒移住の先頭に立ったジョン・ウェスレーとチャールズ・ウェスレーをはじめ、主のみたまの導きによって霊的な暗黒時代の世に光と真理を投げかけたマルチン・ルター、ジョン・フス、ジョン・ウィクリフ、ハルドリッヒ・ツウィングリ、ジョン・カルビン、そのほか多くの偉大な人々の努力と奉仕は、尊敬に値するものです。

ニーファイ第一書第13章1節からわかるように、コロンブスは神の力に導かれて、予任され準備されていた大陸発見の業を成し遂げました。

主はジョセフ・スミス時代の前にこの業を行なわれたのです。

神のみたまは、教会員でない人々も祝福するでしょうか。信仰をもって正しく神を求めるなら、もちろんのことです。私たちの教義にもあるとおりです。というのは「主の言は真理にして、およそ真理なるものはすべて光なり。およそ光なるものはすべて『みたま』にして、すなわちイエス・キリストの『みたま』なり。

『みたま』は世に来るあらゆる人々に光を与え、また『みたま』はその考を聴く全世界のあらゆる人々を照すなり。」(教義と聖約84:45-46)

主は教会員でない人の祈りにお答えになるのでしょうか。大勢の人々が、主はお答えになると証しています。

ここで、宗教の歴史が争いと論争の記録であることを思い起こすとよいでしょう。宗教の違いは、政治的見解の相違がそうであるように、多くの災いをもたらします。宗教を信じる人々が、神の名の下にという見せかけの宣言をして、救い主をはじめ数多くの予言者や使徒を殺害し、クリスチャンを拷問にかけて殺し、民族や国家を征服し、滅ぼ

し、宗教改革の血生臭い戦争を行なったのです。

ドイツとオーストリアの新旧教徒の間に起こった三十年戦争は、1648年ウエストファリア講和条約により、終局を迎えました。ドイツの国土は荒廃し、生き残ったのは国民の半数にも満たなかったと伝えられています。司教や聖職者たちは宗教の名の下に、また神の名を崇めながら、異端者、すなわちローマ教会の指導者に従わない人々をカトリックの宗教裁判にかけました。

宗教にまつわる物語は、「大きな喜び」(ルカ2:10)や平和など、よきおとずれを伝えるものであるべきですが、しばしば、憎しみや拷問、迫害、戦争、大虐殺といった悲惨な話になります。宗教の名の下に邪悪な行ないを正当化するという点において、人類は大して変わっていないことが、旧約聖書やモルモン経からも、またこの世の歴史からもわかります。

アブラハム・リンカーンは、2度目の就任演説の中で、南北戦争中の人々の態度についての的を射た発言をしています。

「(北部の州の者も南部の州の者も)皆同じ聖書を読み、同じ神に祈り、それぞれ敵に打ち勝とうと助けを求める……。両方の祈りが答えられるはずはないし、どちらの祈りも十分には聞き届けられなかった。

全能の神には、みこころがおありなのだ。」(カール・サンドバーグ「アブラハム・リンカーン：戦争の時代Ⅳ」p.92)

社会秩序の中でとるべき態度の基準は、信仰のあついでトーマス・J・ジャクソン将軍の記述に表わされています。

「ジャクソン将軍の安息日の敬虔な態度はここまで及ぶのです。日曜日に配達されるような手紙は、妻に出しません。また妻から来た手紙でも、日曜日には決して開けないのです。しかし、もし安息日に敵が罰を受けるに値するよ



ロジャー・ウィリアムズ(1603—1683) イギリスの宗教的寛容主義者。アメリカのロード・アイランドの建設者。彼は当時の世界には「真実の」教会も、また神から権能を授けられた人も存在しないと唱え、その権能が地上に回復される日を待ち望んでいた。

うであるなら、彼は慈しみ深い神の祝福を得て戦い、殺し、滅ぼすのです。」このように私たちは、宗教の名の下に行なうことを正しいとするのです。

### 「一方通行ではだめです」

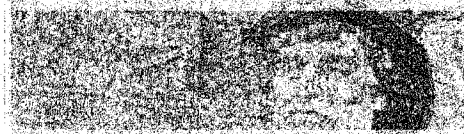
この教会に対して憎しみと敵がい心をつのらせる人、モルモンを奇妙な宗派とみなす人、邪教呼ばわりする人、クリスチャンでないと断言する人、教会歴史の中の悲惨な出来事を取りあげる人、恐ろしい事件を起こした今日の背教者のことを指摘する人、私たちはこのような人々などのように接していけばよいのでしょうか。

何年も前のことですが、ブラジルでの伝道を終えて家族で帰還する途中、おもしろい経験をしました。船の乗客は40人くらいで、私たちには9人の子供がいたので、とても目立ちました。その船には牧師が3人乗り合わせていました。2、3日もすると、それぞれの牧師が私のところへ来て、モルモンが何を信じているのか伺いたいと言ってきました。彼らは、お互いが信じていることにはあまり興味がなさそうでしたが、私たちが何を信じているのか、知りたがっていました。

私は牧師と話した経験がほとんどなかったので、少しためらいましたが、4人が座って話し合えるように手配しました。話してみるとたいへん気が合って、おもに彼らから質問を受けて、それに答えました。聖句を裏付けにして、私の立場を危うくするような議論をふきかけてくるだろうと思っていましたが、3人は友好的で適切な態度で質問をするだけで、私はどの質問にもすらすら答えられました。私自身、あんなによく知っているとは思いませんでした。

話し始めて数分もたたない内に、彼らは互いの顔を見てこう言い出しました。「おもしろいじゃありませんか。あなたの質問にすべて答えていますよ。」3人は何度もその言葉を繰り返し、話し合いは友好的な雰囲気の内にとまりました。

ところが2、3日後に、その中のひとりがまた話しかけてきました。「先日あなたが話されたことについてずっと考えていたのですが、何でも知っているというのは正しいこ



とでしょうか。あなたは知り過ぎていると思います。主が私たちに、すべてを知るように望んでおられるとは思えません。」その牧師は気分を害しているようでした。さらに何日後かにこう言いました。「あなたのおっしゃったことをよくよく考えてみたのですが、あなたが教えていらっしゃるのは非常に危険な邪教です。」

私はそのような批判に適切に応じる備えができていなかったもので、少々腹を立てて尋ねました。「どうして皆さんは、末日聖徒を同じ仲間として認めたがらないのですか。」彼は私の方を向き直って怒ったように言いました。「一方通行ではだめなことを知っていただきたいからです。」ようやく私にもわかりました。私たちはほかの教派の人々を仲間としていなかったのです。彼らの教会をイエス・キリストの本当の教会として認めていないので、私たちの教えの中に彼らを不愉快にさせるものがあるのです。私たちの方としてもやむを得ないことなのですが、その牧師がそう感じたことにはそれなりの理由があったのです。私は備えができていなかったもので、彼の気持ちを和らげることができませんでした。

### 私たちにできること

友情や理解、感謝の念を深め、最終的に私たちの教える原則を受け入れてもらうには、どうすればよいでしょうか。

**第1に、相手と同じように振る舞うべきではありません。**相手が批判的で敵対心をむきだしにしても、私たちはそれと同じような態度で受け答えすべきではないのです。何年にもわたって大勢の宣教師と接してわかったのですが、彼らは自分たちだけに通じる言葉を使います。その中には、悪い言葉や反感を買うような言い回しがあるのです。私がブラジルで伝道部長をしていたとき、宣教師たちはその国の「パドレス」(教会の祭司)を略して「PD」と呼んでいました。

私でも不愉快に思ったのですから、その教会の人たちはさぞかし嫌な気持ちを感じていたことでしょう。彼らは、非常に誠実で深い信念と伝統を持っていました。人の名誉を傷つけるようなことを言う人は、クリスチャンではない

のです。

46年ほど前、私が南ブラジルの最初の伝道地に入ったときのことで。町の中心地から市電に乗っていると、同僚たちが宣教師の住居へ行く方法を教えてくれました。当時、ブラジルの男の人はみんな帽子をかぶっていました。私は次のように教えられていたのです。「乗客が帽子を取るのを2度見たら、次の駅で降りなさい。」この意味は、市電がふたつの教会の前を通り過ぎることでした。つまり教会の前を通り過ぎるとき、男の人たちは敬意を表わして帽子を取るのです。何とすばらしい教えでしょう。人を理解し、感謝を示すために、私たちみんなが倣うべき教訓です。

礼儀正しくない人たちのことを考えてみましょう。私たちはどのような態度をとればよいでしょうか。末日聖徒の心得は次の聖句にはっきりと述べられています。

「しかし、わたしはあなたがたに言う。悪人に手向かうな。もし、だれかがあなたの右の頬を打つなら、ほかの頬をも向けてやりなさい。……」

『隣り人を愛し、敵を憎め』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。

しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。

こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである。」(マタイ5:39, 43-45)

**人に応答するときに忘れてならないことの第2は、かんしゃくを起こさないことです。**爆発した怒りは理性をねじ曲げ、知恵を消し去ります。だれでも怒りやすいものですが、それを行動に移す前に自分自身をコントロールすることができます。私はよく感じたのですが、若い宣教師は自分やこの教会に敬意を表わさないようなものを見ると、すぐに腹を立ててしまいます。しかし、私たちも人の感情を害していることをときどき忘れていたのです。たとえば、私たちの教義を不快に思っている人たちがいます。ブラジルのある町で、プロテスタントの牧師が私たちの教会を中傷するパンフレットを作って配り出し、長老たちの目にも留まりました。パンフレットの内容は、教会のことが広く知られているアメリカであれば、相手にされないような馬



マルチン・ルター(1483-1546) 当時の教会が行っていたことに対して異を唱え、宗教改革を推し進めた。彼は聖書に基づく教を説き、来るべき福音の回復に必要な舞台作りをした。

鹿げた話でした。ところがブラジルの人々は、教会について誤った考えを持ち始めたのです。長老たちは、何とかしたいと思いました。

私は長老たちに、もしその牧師を見つけることができるのなら、パンフレットを持って訪ねてみなさいと提案しました。長老たちは多少準備をしてからその牧師を捜し出して、尋ねました。「あなたがこのパンフレットを発行した責任者ですか。」牧師は逃げ腰で当惑しているようでした。長老たちは言いました。「私たちは末日聖徒イエス・キリスト教会を代表する者ですが、この資料が正しくないことをお伝えしたいのです。これは私たちが信じていることではありません。このような間違ったパンフレットは歓迎できません。でも、これを読んだ人と会ったときに、正しい真理をお伝えするのは簡単なことです。もちろん、その人はあなたに対して不愉快な思いを抱くでしょう。この種のパンフレットを発行すべきだと感じるなら、どうぞお続けください。私たちは構いません。いろいろな点で助けになります。しかし、もうなさらない方が良いでしょう。」これで問題は解決しました。

別の出来事ですが、比較的若くて経験の浅いふたりの長老が新しい町に伝道所を開きに行きました。町の住民のほとんどはカトリック教徒で、地元に住んでいる司教の支配下にあるとのことでした。長老たちが伝道して人々と親しくなろうとすると、よく次のように聞かれました。「司教はおふたりがここにいることをご存じですか。」

「さあ、わかりません。」

「では、司教が知ったらどうなるか見ものですね。」

ある日問題が起きました。神父が長老たちの住居に手紙を持ってきたのです。手紙の要旨はこうでした。「私たちは、あなた方が何の権限によってこの町に来て、地元の司教の許可も得ずにあなた方の教義を教えているのか知りたいと思います。つきましては、カトリック中央教会で開かれる特別集会に出席するようにお願いいたします。」

長老たちは伝道本部に電話をしました。

「伝道部長、どうしたらよいでしょうか。こちらへ来て助けてくださいませんか。」私は答えました。「いいえ、私

は行きません。でも私たちが信じていることを説明するように招待されたのです。長老たちがそこへ派遣されたのは、そのためですね。」

「ええ、そうです。でもこの状態をどう処理すればよいでしょうか。」

「私の補佐に行ってもらいましょう。招待を受けなさい。ただふたつの条件つきでね。こう言いなさい。『もし礼儀正しく扱ってくださり、私たちの信じていることを説明する機会を必ず与えてくださるなら、喜んで参加させていただきます。』」

その集会では、担当の神父が形式ばらずに立って言いました。「ここにいるふたりの青年は彼らの宗教を教えています。皆様にお集まりいただいたのは、彼らの教義の説明を聞くためです。」会場には町の有力者を代表して2、3百人の人が出席していました。

そこで長老たちは立ちあがって、背教と回復、モルモン経について述べました。それが終わってからこう言いました。「もし皆さんがこのモルモン経を読んで祈るならば、主から証を授かるでしょう。」会場の後ろの方にいた神父が直ちに飛びあがって言いました。「だめです、だめです。あの本を読んではいけません。」みんな笑いました。唯一の問題といえば、集会の後でセブンスデーアドベンティスト派の人が神父と言い争いをしていたことぐらいで、長老たちはここちよい会話を交わしました。それ以来、町での伝道には何の問題もありませんでした。

**第3に、言い争いをしないことです。**言い争いは決して理解を生み出しません。私は、最近アリゾナのメサ神殿の神殿長を解任になったハロルド・ライト兄弟の話を聞きました。彼はステーキ部長や地区代表として何年も働き、教会員でない人とも広く交際していました。あるとき総大会に行くと、テンプルスクウェアの外で教会に反対するチラシを配っている人たちがいました。その中のひとりの男の人は、毎回来ているようでした。ある大会のときにその人と話してみると、ロサンゼルスから来た牧師でした。ライト兄弟は大会に来る度に彼と話をして友達になりました。そして、ある日こう尋ねました。「総大会に出席されたこと



ジョージ・ウエスレー(1703-1791) イギリスのメソジスト教会の創設者。キリスト教徒は異教徒と化し、救い主の純粋な教えを捨ててしまったために、当時の世界には聖霊の賜が見られなくなってしまったと信じていた。彼が説いた教えはアメリカ植民地へ広がり、偉大なみ業につながる伏流となった。

がありますか。」

「いいえ、ありません。」

「中へ入ってみたいですか。」

「是非とも入ってみたいですね。」

そこで、その牧師を大会に連れて行きました。ライト兄弟の話によれば、その友達は今まで味わったこともないような力を感じて、何度もそのことを話していたそうです。私の知る限りでは、その牧師は改宗しませんでした。しかし、考えの違う人への何とすばらしい応待の仕方でしょう。

**第4に、教える機会や証する機会を逃さないことです。**教会に対して反感を示す人は、少なくとも教会について何らかの関心を持っているのです。私たちは、ブラジルで拒絶を好機に変える方法を宣教師に教えました。宣教師たちはよい雰囲気です。2、3回家庭集会をしても、ある日玄関に出てきた父親から「もうあなた方と宗教について話し合えないことにしました」とよく言われていました。

私たちは宣教師に、このような気落ちする知らせを受けたときは、胸の内に感じたことを話すよう教えました。たとえばこうです。「もうレッスンを受けないとお決めになって残念です。一緒にお話しできてとても楽しかったです。ご親切にしてくださいましたし……。」もちろん父親は、返事に何か良いことを言うでしょう。

そこで長老たちはこう言うのです。「ちょっと中に入ってご家族に挨拶をしてもよろしいですか。ご無理は申しません。」

中で、長老たちは別のレッスンを無理にしようとするのではなく、こう言うのです。「とても親切にしてください感謝しています。失礼する前に宣教師の務めですから、福音が私たちにどういう意味を持っているか、お話ししなければなりません。」そして、なぜ彼らのやり方が正しいと信じているのか説明します。

「ジョセフ・スミスがベッドの側にひざまずいて、自分を愛してくださっているかどうか主に尋ねたとき、天使が現われたのを覚えていらっしゃいますか。天使は次のように言いました。『われは神の御前より汝に遣わされし者にしてわが名をモロナイと言ひ、』神は汝に一つの事を成し遂

げさせんとし居りたもう』、また『汝の名は、あらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民の中に善くも悪くも覚えられ、あらゆる人々の中に善くも悪くも語られるべし。』(ジョセフ・スミス2:33) ジョセフ・スミスは天使に何と言いましたか。」

「多分神のみ旨を行なうと言ったでしょう。」

「そのとおりです。ジョセフはこうは言いませんでした。『ちょっと待ってください、天使様。私は伝道に行きたいのではありません。主が私を愛してくださっているかどうか、知りたかっただけです。』天使にそんなことは言えませんね。ですからはっきりと申しあげますが、いつの日か皆さんは神のみ前に立って、なぜ神のメッセージを聞かなかったのか尋ねられるでしょう。皆さんが何と言われるかはわかりませんが、福音を拒む前にひざまずいて、主が皆さんに望んでおられることを祈り尋ねてみるべきだと思います。そうしてくださいますか。」

教会のことはもう二度と聞かないと決心していた多くの人が、祈りに基づいて教会に入りました。

**第5に、備えることです。**何年も前ですが、ブリガム・ヤング大学のバスケットボールの花形選手に、ハーシェル・ピダーセン兄弟がいました。私は彼のことをよく思い出します。ピダーセン兄弟はある日、仕事場で昼食を取りながら聖典を読んでいました。するとある人が無造作にドアからのぞき込んでこう言いました。「へえー、お前そんな本読んでるのか。」

「ああ、君はこの本について何か知っているかい。」

「みんな知ってるさ。」

「ほんとうかい。じゃあ、救い主が再臨される時、衣の色は何色か言ってごらん。」

「そんな簡単さ。白だ。」

「ここにはそう書いてないよ。」

「じゃあ何色だい。」

「自分で調べてごらんよ。」

ピダーセン兄弟は教えようとはしませんでした。1、2週間後にその人は話し合う用意をして戻って来ました。そして後にこう言ったそうです。「ぼくみたいな男でも、望み



があるかな。」

今では当たりまえと知っていることについて、教会員でない人に何か質問をしてみてください。次の聖句を読んで何がわかるでしょうか。

「終りの日に次のことが起る。

主の家の山は、

もろもろの山のかしらとして堅く立ち、

もろもろの峰よりも高くそびえ、

すべての国はこれに流れてき……」(イザヤ2:2)

今、私たちはこの意味を知っています。この聖句を読むと、ソルトレーク神殿が心に浮かんできます。でも、もし皆さんが教会員でなかったら、聖句の意味をどう捕らえますか。理解できないことでしょうか。ですから質問してみます。また、ヨハネ伝の第10章で救い主が言われたことについて尋ねてもいいでしょう。

「この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼となるであろう。」

(16節)

もし教会員でなかったら、ここに述べてあることは不可解でしょう。そこで、救い主の声を聞く失われた羊とはだれのことか、尋ねることができます。忘れないでください。皆さんは答えを知っているのです。

**第6に、証をすることです。**私たちは全部の答えを知っているわけではありません。しかし、証を持つには、すべてを知る必要はないのです。もし質問の答えがわからなければ、証をしなさい。質問をした人はそれを信じないかもしれませんが、皆さんが信仰に忠実であることはわかるでしょう。

**第7に、信仰に生きることです。**私たちが自分の信仰に忠実に生活するならば、周囲の人たちは私たちが何に従っているのかわかるでしょう。今から随分昔に私が軍隊にいたとき、身近な仲間、私が末日聖徒であり、宣教師だったことを知らない人はいなかったと思います。彼らは私に最大の敬意を払い、私の模範をほめてくれました。私は軍隊にいる仲間たちが教会をうとましく思うようなことは

しなかったと信じています。

やがて仲間のひとりが教会に入りました。言葉で福音を教えたのは、私ではありません。だれかが彼を見つけて教えたのです。でも、彼がバンガーターというモルモンの若者のことと、そしてその生活習慣を忘れないでいてくれたと思うのです。私はそう望んでいます。

### 弁解しない

では私たちの立場を明確にしましょう。私たちは寛容で、思いやりと敬意をもって人と接するべきですが、事柄によってはしっかりと従わなければいけません。ほかの教会にある教義や原則がこの教会にないからといって、弁解する必要はありません。そのことを温かく友好的な態度で話すことはできますが、弁解はしないのです。私たちがこの回復に着手したわけではありません。神がなさったのです。たとえ人々がこの教会や教義の価値を認めなくても、私たちはそれらが真実であることを知っています。

回復された福音を望まない人もいれば、生ける予言者や使徒の存在に反感を持つ人もいます。また、神が再び天から語られるという考えを嫌う人もいます。その理由はわかりませんが、多分先祖からの言い伝えがこうした態度を助長して、回復の概念は自分たちを攻撃するものであると思込んでいるのでしょう。

それでも私たちは、神が人類に語りかけられたことを知っています。人類がみずからを備えて主のみもとへ帰り、日の光栄の王国に昇栄できるように、主はこの末日に永遠の全き福音を明かされたのです。私たちの証はこれです。神は生きておられます。イエスはまことに救い主であり、贖い主でいらっしゃる。ジョセフ・スミスは末日に回復をもたらす神の器として召されました。末日聖徒はこれらの真理を理解し、その理解に忠実でなければならないのです。□

(この説教は、1985年8月4日にプリガム・ヤング大学でなされたものです)

# 聖餐会の 話のための 処方せん

クリス・クローウェ

**汗**ばむようなある日曜日の午後のことです。礼拝堂は、むっとして息がつまりそうでした。妻は子供たちを静かにさせようと苦闘していましたし、私も目を開けてしようと、まぶたと格闘していましたが、ふたりとも劣勢に立たされてしまいました。

そのときの話は、聖餐会特有の眠気と戦っている私を救ってくれるようなものではありませんでした。若い話者によくありがちな話し方で、私たちのワード部の若い子たちの例にもれず、ただ本を読んでいるだけなのです。

彼がもぐもぐ話しているうちに、妻も私も降参してしまいました。妻は子供たちを外へ連れ出し、私は眠ってしまったのです。頭を下げて両手に顔をうずめて、そのうち気持ち良く、うとうととしてしまいました。

気持ちが良過ぎたからか、あるいは前にもあったようにだれかがつついて起こしてくれたからか、手が滑ってゴツンと前のいすにおでこをぶつけてしまいました。

いつも聖餐会でこんなに大変な思いをする訳ではありませんが、退屈な話者と蒸し暑い礼拝堂では、だいたい眠たくなってしまいます。

しかし、どんなに居心地の悪い環境でも、話がよく聞けて、話者から何かを学び取ることができる場合もあります。私が眠くなるのは外的な環境によるのではなく、話者によるのです。ではどういう話者が良い話者なのでしょう。若い話者も含めてどのような人が教会で興味深い話を聞かせてくれるのでしょうか。

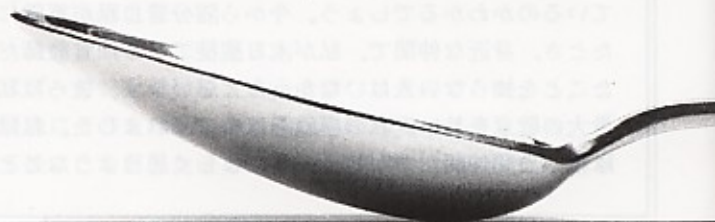
私は自分が聖餐会の話で失敗するまで、人によってその話のおもしろさに差があるのはなぜなのか、深く考えたことはありませんでした。私が愛国心について話をしたとき、たくさん引用文や聖句を使って、自分でも満足のできる準備をしたのですが、結果はよくありませんでした。終わりにはみんなを眠らせてしまったのです。そのときとてもきまりの悪い思いをしたので、もう二度と退屈な話はしないと心に決めました。

それからはほかの人たちはどうなのか、興味ある話者やその話の内容に注意を払うようになりました。聖餐会で惨めな思いをしてから数週間後、ステーキ部長会が話をするファイヤサイドに出席しました。3人の話はそれぞれに靈感にあふれた力強い内容で、聴衆を見渡しても退屈したような顔をしている人はだれもいませんでした。

最初の話者は第二副ステーキ部長でした。彼は小さな町で過ごした幼年時代のことや、学校でほかの子供たちからのけ者にされている男の子と仲良しになるためにどのような努力をしたかを話しました。今では成功者となったその友達のなかった少年が、20年後に自分を訪ねてきて、彼の親切に感謝したそうです。そして彼は「人の値」（教義と聖約18：10参照）について述べた聖句を引用してから、福音に対する証をして話を終えました。

次に第一副ステーキ部長が彼の曾祖母についての話をしました。その曾祖母という人はブリガム・ヤング以後の大管長全員を個人的に知っていたということでした。彼は彼女を最後に見舞ったときのことを話しました。まだ小さかった彼とその家族にしわがれた声で、しかしきっぱりと信仰を保つようにと言ったそうです。彼はそれから最後まで耐え忍ぶことについて述べた聖句を読み、絶えず善を行なうように努めることの大切さを証して終わりました。

最後にステーキ部長が話しました。家族に愛を示すことの大切さを述べ、彼が元気な父親の姿を最後に見たときの話をしました。伝道に出る彼を、両親はバスの停留所まで見送りに行きました。最後の別れのときが来て、彼は両親にあいさつをしてから、待っていたバスの方に向かいました。バスに乗り込もうとしたとき、もう一度父親の所へ戻





# 聖餐会 カルシウム

適応症：聖餐会の欠席、遅刻、あくび、いねむり。  
成分：青酸カリは含まれておりません。

## 使用上の注意

- 使用時には、添付の「聖徒の道」をよく読んでください。
- 話者の手の届く所に保管してください。

って別れの言葉を告げようとみたまがささやきました。彼はバスを降りて父親を抱きしめ、最後のキスをしました。それが彼と父親とのこの世で最後の別れだったのです。私たちは耳を澄ましてじっと彼の話に聞き入っていました。

結びに、ステーキ部長は家族はお互いに愛し合わなければならぬと証しました。私たちはその話に深く感動し、霊的なものを感じました。

私は会が終わってから、ファイヤサイドでの話者たちが話を興味深く、また充実したものとするためにどのようなことをしたのかについて考えてみました。彼らは皆福音の原則を説くために聖句を用い、適切で霊的な話や経験談を物語り、証をしていました。

次の総大会では、大勢の教会幹部が同じ方法、つまり聖句、実際の経験談、証という組み合わせを用いていることに気づきました。これと同じ方法を使えば、ほかの人でもよい結果を得ることができるのでしょうか。

この組み合わせが本当に効果的かどうか、私は次の話の責任のときに、試しに使ってみることにしました。まず神殿とそれにまつわる家族の喜びに満ちた経験や、家族が結び固められたときのことを話しました。次に神殿の重要性について述べ、ポイントとなることを強調するために聖句を引用し、最後に神殿と神殿がもたらす永遠の祝福について証しました。

会が終わってから、聴衆が立ちあがって私の話をほめた。たえてくれた訳ではありませんが、そのかわり居眠りをする人もいませんでした。実を言うと、いつもなら妻と監督くらいしかほめてくれる人はいないのですが、このときは何人かの人が私の話に賞賛の言葉を贈ってくれたのです。私は自分の話に気を良くしました。

聖餐会で話す機会はすべての人にやって来ます。遅かれ早かれほとんどの人が話をするのです。あなたの番も（また）すぐ来るでしょう。でも話上手な人が使うこの簡単な方法を取れば、きっと成功して、自分も話を聞いてくれる人々と共に楽しい経験を分かち合えることでしょう。

まず祈りの気持ちをもって、話のテーマを選んだり、あるいは与えられたテーマについて熟考します。次に標準聖典の中から適切な聖句をひとつふたつ探します。そして自分自身の経験（または、今までに読んだことのあるほかの人の経験談）を思い起こし、精神を高揚させる話を選んで関連づけます。最後に話の中で述べる原則について証するのです。

もしこれらの4つのステップをあなたの次の話のときに組み入れて、よく祈るなら、聖餐会で効果的な興味深い話をする事ができるでしょう。

そして、そのような話なら私も決して居眠りをしないと約束します。□

# まだ終わりではない

ジャネット・トーマス

**中**学1年だった私はロッカーをぼたんと閉めると、理科の授業に遅れないように、一目散に階段を駆け上がりました。自由研究を何かひとつ考えておくようにという課題が出ていました。火山の模型製作が良いと思ったのですが、セロリの茎と赤い食紅を使った毛細管現象の実験なら、たぶん母にも手伝ってもらえるだろうと考えていました。

クラスの後ろの方の自分の席に着くと同時に、始業のベルが鳴りました。アルファベット順の座席だといつも部屋の後ろになるので、この方法で席順が決められているのもそろそろいやになり始めていました。

私より後ろにはほんの数人しかいませんが、その中のジュリー・ウェスタガードにひと言話しかける暇も与えず、理科の先生はすぐ話し出しました。見るからに興奮した様子で、そのわけを私たちに聞かせてくれたのです。その日の授業は理科ではなく、合衆国が深刻な軍事危機に直面していることについてでした。ソ連がミサイル搭載船をキューバに向かわせていたのです。大統領は海上封鎖の手段を取りました。

「戦争になるかもしれません。」先生は机を叩きながら言いました。「今のこの世界が30分もしないうちに終わるかもしれません。核戦争が一体どんなものか、皆さんにはわかっていますか。それは世界の終わりなのですよ。」

私はいすに釘づけになりました。先生の声がずっと遠のいて、ドキドキという鼓動ばかりが耳を打ちます。怖かったのですが、恐怖や動揺を表には出しませんでした。しかしさすがにその日はずっとぼんやりしていました。

学校から歩いて帰る途中も、その日は理科の先生の言葉が頭から離れませんでした。「世界が30分で終わりになるかもしれない。30分で終わるかもしれない。」

私はその不安を両親に話しませんでした。もう12歳ですし、心配事をいちいち母に打ち明けることなどしないで、大人だということを示したかったからです。

夕食が済むと、自分の寝室に入って、宿題をしようと思いき向かいました。いつもなら夜一番に宿題に取りかかる気はしないのですが、世界大戦の恐怖を頭から追い出す

にはそれしかなさそうに思えたのです。しばらくして宿題に疲れると、周りに置いてある物をいじり始めました。山と積まれた紙を分けていると、年の始めにもらったしおりが出てきました。裏には年間の読書予定リストが書いてありました。そのリストのことは今まで気がつかなかったのですが、教科書に戻るのを先延ばしにしたい気があって、そのリストの最初を少し読んでみることにしました。「高価なる真珠」の最後の数ページに載っているジョセフ・スミス訳のマタイ伝のところす。


23節を読むとすぐに涙で目がくもり、温かく穏やかな思いに包まれました。「<sup>なんじ</sup>汝ら戦争と戦争の噂<sup>うわさ</sup>とを聞かん。心して思い煩<sup>わづら</sup>うなかれ。すべてわが汝らに告げしことは起らざるべからず。されど、いまだ終りにはあらず。」(ジョセフ・スミスの著マタイ伝1:23)

キリスト再降臨前の末日のことや、時のしるしについても読みました。そのときには、もうその日理科の授業のときに感じた恐れや動揺はなくなっていました。天のお父様が私たちのことを忘れずにいてくださることや、世界の出来事は予言のとおり起きていることがわかったのです。恐れることはありませんでした。

今まで様々の脅威的な出来事が繰り返されてきましたが、ひとり寝室の机の上で「高価なる真珠」を開いたあの夜以来、私の心にはいつも平安がありました。私も世の暴力には反対ですし、平和を願う気持ちは皆さんと変わりません。しかし私は聖典に書かれた予言をよく知って、思い煩う必要はないという約束をいただいたのです。

お便りをお寄せください

聖典によって祈りの答えを受けた、必要なときに慰めを得たという経験を、多くの方がお持ちです。ある聖句によって自分が変わったという体験談をお送りください。文章の巧拙<sup>くわくせつ</sup>は気にせず、ご自身の言葉で書いてくださるようお願いいたします。あて先は以下のとおりです。International Magazine, 25th floor, 50 East North Temple, Salt Lake City, Utah 84150, USA.

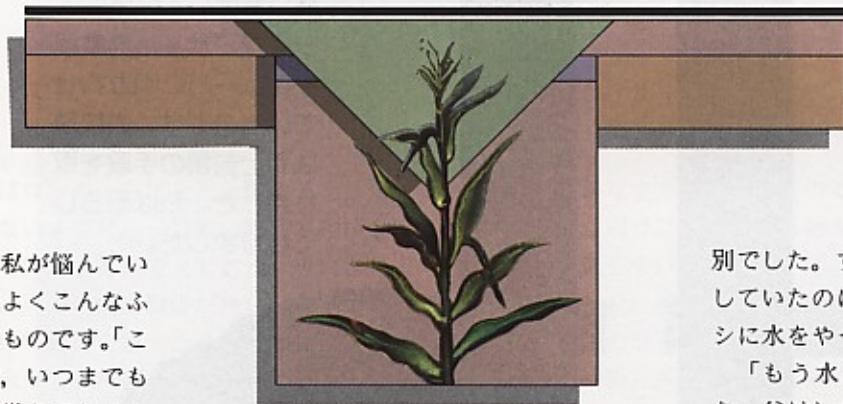


合衆国が深刻な軍事危機に直面していました。ソ連がミサイル搭載船をキューバに向かわせていたのです。大統領は海上封鎖の手段を取りました。私は恐ろしくなりました。

なまじ  
汝ら戦争と戦争の噂<sup>うわさ</sup>とを聞かん。心して思い煩うなかれ。すべてわが汝らに告げしことは起<sup>おこ</sup>らざるべからず。されど、いまだ終りにはあらず。

# トウモロコシ畑で 学んだ教訓

サンドラ・ストーリーングス



**青** 少年時代、父は私が悩んでいる姿をみては、よくこんなふうに声をかけてくれたものです。「こんなことは一時だけで、いつまでも続きはしないさ。よく覚えておきなだね。」

最近のことですが、ある時期私は、問題が解消して、思いどおりのことが実現したらと願っていました。ところがどちらも無理のようです。事によってはいつまでも続くものがあるのではないだろうか、といぶかしく思い始めました。ある祈りが答えられないように思えたり、祝福が与えられないことがあるのはなぜでしょうか……。

私はその答えを実家のトウモロコシ畑で見いだしたのです。

土曜日のことです。家庭菜園に水をやらなければなりませんでした。実家に帰っていた私は、その仕事を買って出ることになりました。

スコップを片手に私が用水の方へ行こうとすると、父は「トウモロコシにだけは水をやらないでくれよ」と言いました。父が何を心配しているのか、私にはわかりませんでした。

「本当にあげなくてもいいの。」そう聞き返すと、父と一緒にトウモロコシ畑へ行って確認することになりました。ふたりで菜園に行くと、トウモロコシを見てみると、丈は60センチくらいになっていましたが、葉はしなびて暑さのためにしおれかかっていました。

私たちは例年どおり5月の最後の週に、家庭の夕べを利用して植え付けを終えていました。その月が終わる2、3日前まで霜が降りていたのですが、それを過ぎると急に夏らしい気候になりました。

今年は父の家では、えんどう豆やそら豆、トウモロコシ、ジャガイモ、西洋カボチャなどを植えましたが、畑の作物は今年も予定どおり育っていました。どの作物にも植えてから2、3度水をやっていましたが、トウモロコシだけは

別でした。すでに6月も終わろうとしていたのに、父はまだトウモロコシに水をやっていなかったのです。

「もう水をやってもよさそうだな。」父はしなだれた葉を調べながらこう言って、長い間ほうっていた訳を

話してくれました。

「トウモロコシが育ち始めたときに水を与えれば、そりゃあぐんぐん伸びるだろう。しかしそれでは、根の方がまだ十分に張ってなくてその高さを支えられないんだよ。だから結局はよくないのさ。」

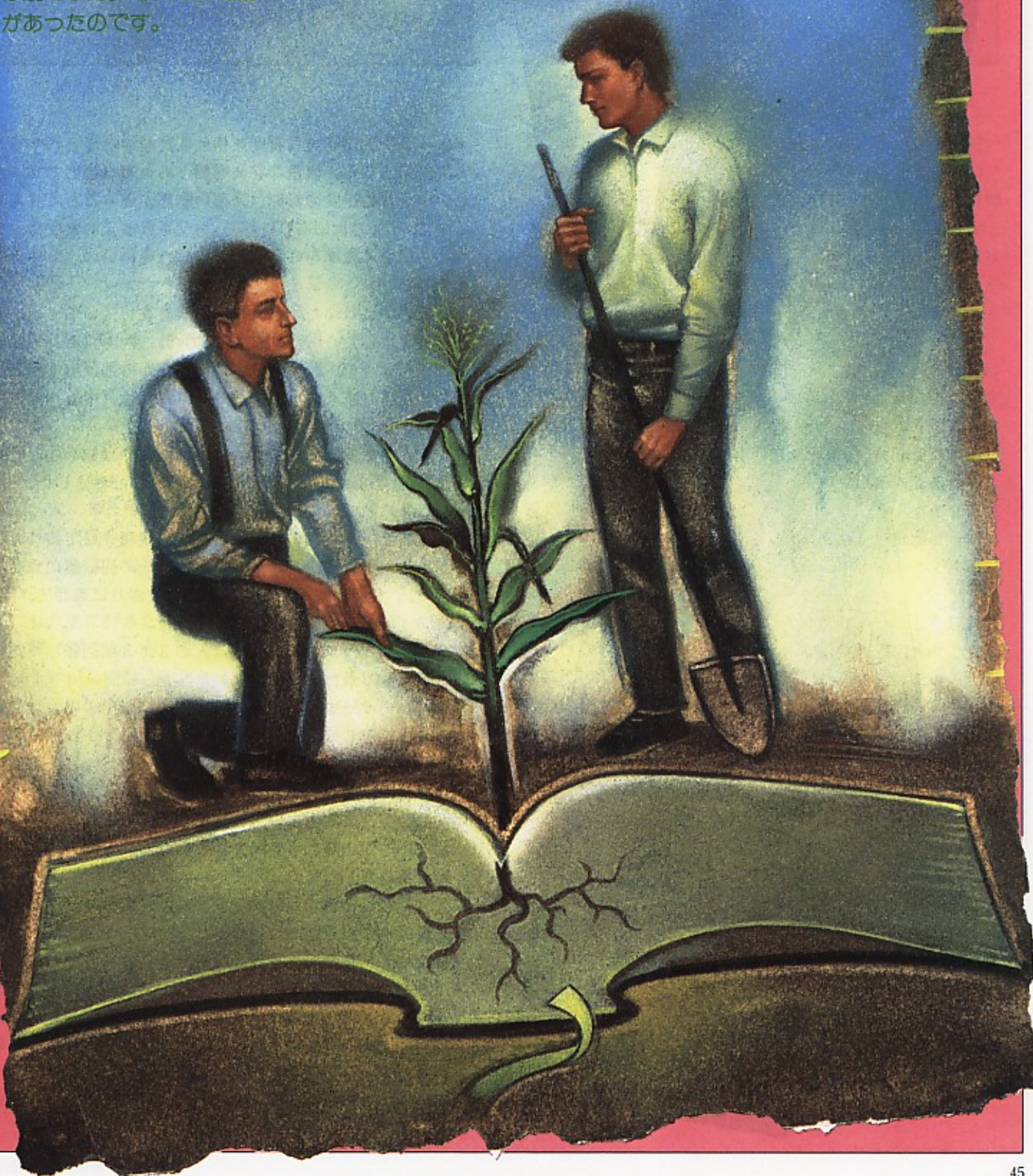
父が立ち去ると、私は父の言葉について考え始めました。彼はトウモロコシが十分に生長し、根と茎のバランスがとれるように、丈夫に育てていたのです。

私は自分の生活を振り返り、どれほど自分がそのトウモロコシに似ていたことか、と思いました。十分に根を下ろしてもいなくせに、水を欲しがっていたのです。

私はリックス・カレッジで聞いたニール・A・マックスウェル長老の話の思い出しました。それは「足を地につけ、定着させ、しっかりと立つこと」についての話でした。多分主は私が少しの間水なしで歩むことをよしとされたのでしょう。私が福音の中にあってしっかりと立ち、根を下ろすことができるようにするためだったのです。おそらく私には忍耐力という根が必要だったのでしょう。そのおかげで広い心と愛をもって働くことができるようになりました。また、自分の生活の中にあるたくさん人の根の浅い箇所にも気づきました。

私は人生のつらい時期にもそれほど心を痛めなくてよいことを学びました。主の時が来れば、園の主が水を注いでくださることを知っているからです。そしてその時には、マックスウェル長老がいみじくも「マラキの升」と呼んだように、「容るる所なきほどのあふるる恵み」(Ⅲニ一フェイ24:10)を注いでくださるのです。□

どの作物も植え付けてから  
2, 3度水をやっていたの  
ですが、トウモロコシだけ  
は別でした。それには理由  
があったのです。



# 人◇生◇

## 世界が自分の周りを回転し始

**あ**る少女が切実な質問を抱えて父親のところへやって来ました。慎重な答えを要する大事な場面です。かわい十代の少女の質問は、「悪い誘惑が周りにたくさんある中で、『この世にありながら』お父さんや天のお父様が喜んでくださる標準を守るにはどうしたらいいの」というものでした。

「世の中にはふたつの大事な力が存在している」と、父親は答えました。「遠心力と求心力だ。遠心力(セントリフュガル)はラテン語の語源では『中心から逃げ出す』という意味だよ。求心力(セントリペタル)は『中心へ向けられる力』だ。」

「そんなむずかしい答え。私が聞いたのは簡単なことなのに」と、当てがはずれた少女は口をとがらせました。「簡単に答えられないの。」

「さてと、父さんの言いたいことを説明させておくれ。綿を小さく丸めて、レコードプレーヤーの回転盤に乗せてみよう。」父親は綿玉を回転盤の端ぎりぎりに乗せて、「さあ、スイッチを入れて」と言いました。

少女がスイッチを押すと、ほんの2、3回回転しただけで綿玉は放り飛ばされてしまいました。

「プレーヤーを止めて。今度は綿を回転盤の中心に置いてごらん。そしてまた回してみて。」

少女が言われたとおりにすると、回転盤はくるくる回り出しました。ところが今度は、綿の玉は動きません。

「遠心力、求心力というのはこのことなんだよ。ひとつは物を中心から離れさせる力、もうひとつは物を中心に向かわせる力だ。」

父親はほほえみながら、少女が幼かったときに大好きだった遊園地の乗り物のことを話し出しました。「あの大きな回転台によく乗ったのを覚えているかい。振り落とされないようにみんなでやっきになって回転台の中心に行こうとしただろう。ぐるぐる回る台の上で自分の位置を保つのに必死だったね。さっきの話も大きな回転盤みたいなものだ。」

「ええ、そうね」と少女が答えました。「あの台が回り始



# に◇渦◇巻◇く◇力

めるとき、安全な場所は中心にあります

十二使徒定員会会員  
ラッセル・M・ネルソン

めたら、一番端の子たちはさっきの綿みたいにすべり落ちてしまったわ。中心近くにいられた子はそのまま無事なの。何とかして端から中心の方へ動こうとしたけれど、ものすごく大変だった。台にへばりついて、よっこらしよ、って体を動かして。でも、自分は大丈夫って思っても、真ん中に来られない子たちのことをいつも警戒していなくちゃならないの。だって自分が落ちるとき、必ずだれかにすがりついてその人も一緒に落とそうとするんですもの。」

「ある意味では、人生もそんなものだよ。苦勞がいろいろある。落ちていく人が近くの人を引きずり込むことだってある。そんな中で、私たちは引っ張り落とそうとする力に対抗して、上に登ろうと頑張っているわけだ。」

じゃあ、おまえの質問に戻ろうね。世の力に引きずられずに、友だちと仲良くしていくにはどうしたらいいか。上を目指して進みたかったら、それにふさわしい行動をすること。もし落ちてしまってもいいなら、無理にそうする必要はないよ。」

「私、上に行きたいわ、お父さん。」少女が言いました。「目標に到達するの。永遠の目標よ。」

「それが目標なら、おまえもこの前会ったベテランの登山家が、いいことを教えてくれたよ。彼が話してくれた経験談で一番心に残ったのはどんなことだった？」

「それはいろいろあるわ。一番大事だなと思ったのは、事前の計画。登山家たちは、起こりそうなことをできる限り予測して、どんなことになってもきちんに対応できるように、処置の方法をしっかりと決めておくのね。」

チームワークにもほんとに感心したわ。すごくきつときとか高い所に登るとき、ロープでみんなの体を結ぶのよ。ロープは上の方の何かしっかりした物につないで、登って行くの。ほかの人がいかり錨になって、命拾いすることがあるんですって。写真を見せてくれたんだけど、真ん中の人の上と下の人にロープでつながれ、宙にぶら下がっていたわ。その人たちとつながっていたから、落ちなかったの。」

お互いの連絡も、とてもよく取れていたわ。一時的に離れるときでも、連絡だけは十分に取っていたんですって。」

危険な場所に近づけば近づくほど、皆用心してできるだけその危険な場所から離れたルートを選んでいきたいね。」

「危険な場所にどの程度まで近づけるか、そういう質問をした人はいなかったのかい。」父親が口をはさみました。

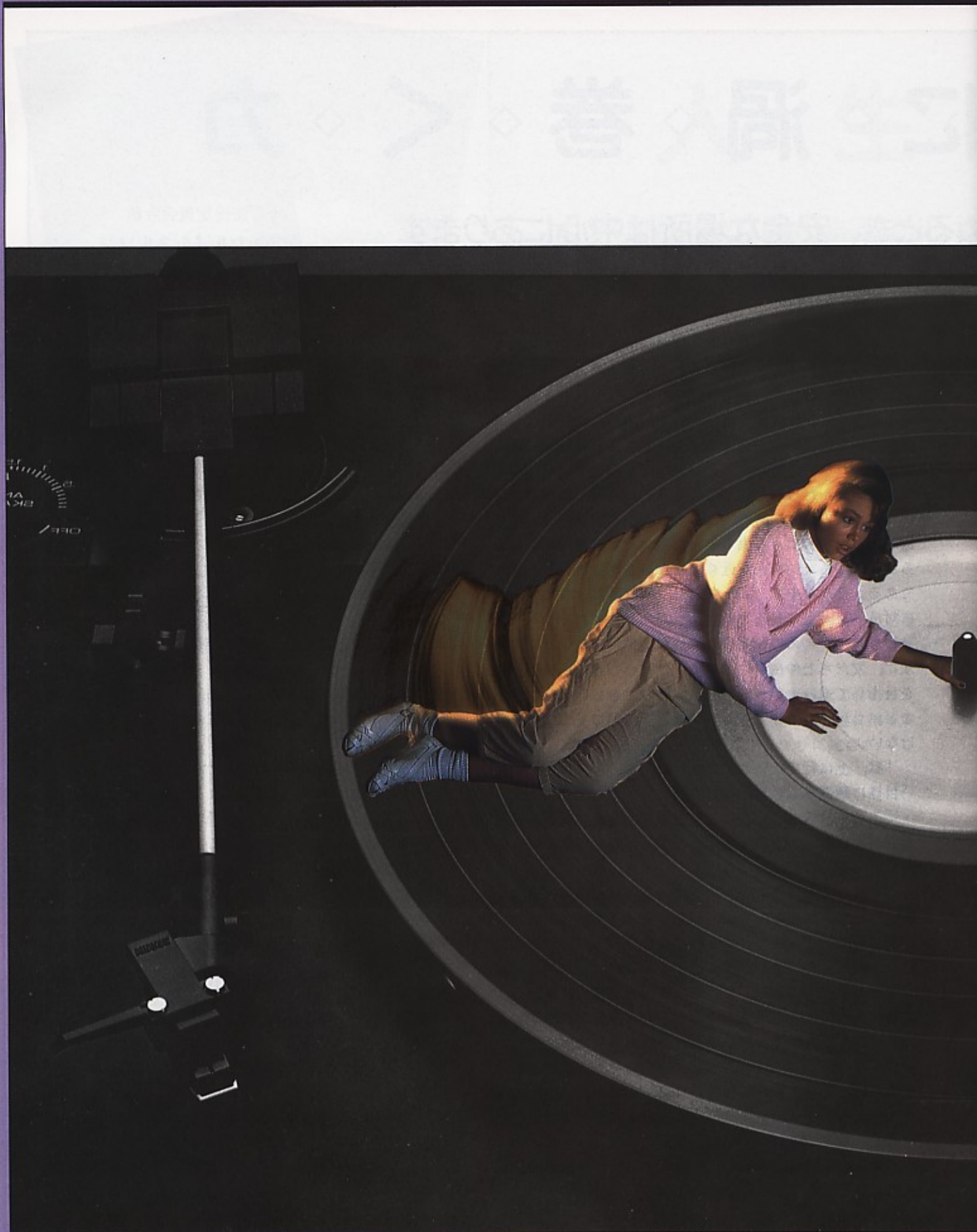
「全然。むしろ逆よ。強調してたのは、どうしたら危険な場所からできるだけ遠ざかれるかということだったと思うわ。」そのとき少女は、はっとして言葉を継ぎました。「お父さん、わかりかけてきたみたい。」

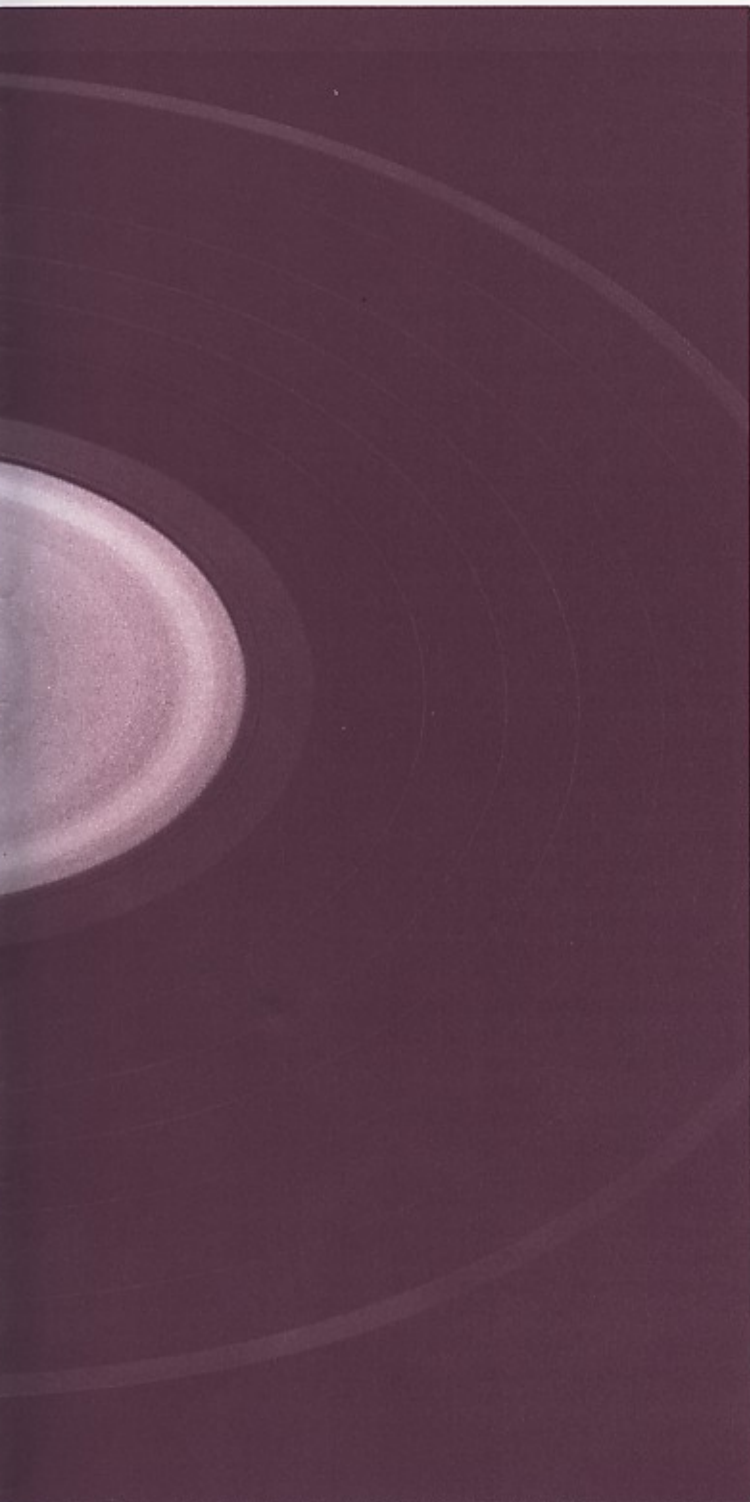
父親は話を続けました。「今の話をおまえの質問に当てはめてみよう。これから人生を歩いていく中で、いろいろ乗り越えなければならない難問が出てくるね。そんなときおまえにできる一番大切なことは「前もって計画を立てる」ということだ。どんな落とし穴が待ち受けているのか知っておかなくちゃいけないからね。そして、ちょうど登山家のように、問題がどんなものであっても、自分がどう対応し、どのような行動を取るつもりなのか、前もって決めておく必要があるんだ。」

それから、自分もチームのひとりだということを忘れてはいけないよ。おまえは目に見えない愛の絆で人々とつながっていて、人々はおまえの成長のために祈っているんだ。その絆は登山家のロープと違って、目には見えないがね。おまえのチームの仲間はこの世の人たちだけではない。先祖もおまえのことに關心を持ち、おまえを支えているんだよ。それに親類、学校や教会の先生、友達はいつもおまえを成長させてくれる人たちだ。もし知人の中におまえの足を引っばるような人がいたら、そういう人は決して本当の友達ではない。本当の友達はおまえを引き上げてくれるものだ。決して引き下ろしたりはしない。」

それから、登山家もそうであるように、おまえにとっても人と話し合うことは生きるうえで大切なことだ。だからきょうのように、どうしても答えが欲しいような疑問を感じたときに、お父さんに話そうと思ったのはとても良いことだ。それに、天父も同じように喜んで祈りの中でおまえの話を聞いてくださるよ。」

それから、もしも危険な目に遭ったら、いつでも中心に



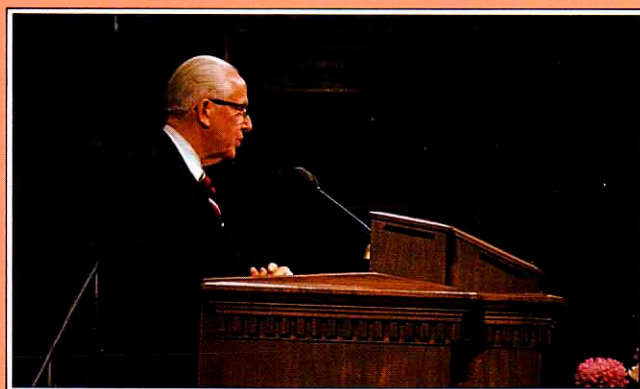


もしも危険な目に遭ったら、  
いつでも中心に目を向けるようにするんだよ。  
レコードプレーヤーは中心の軸がなかったら、  
良い音を出すことはできない。  
活気に満ちたこの世を、  
福音という鉄の棒を  
中心にしっかり固定したなら、  
人生は美しい音楽を奏でてくれる。

目を向けるようにするんだよ。考えてごらん。レコードプレーヤーは中心の軸がなかったら、良い音を出すことはできない。活気に満ちたこの世を、福音という鉄の棒を中心にしっかり固定したなら、人生は美しい音楽を奏でてくれる。

これに限らず、心の中に疑問を感じたらどんなときでも中心から離れてはいけないよ。おまえの愛する人たちは、同じような状況にいたらどのようにするだろうかと考えるんだ。そして主はどうするように勧めるだろうかとね。もしおまえがしっかりと鉄の棒、つまり神の言葉につかまって離れなければ、安全に行動できるんだ。誘惑の嵐も、おまえを振り落とすことはない。中心にしっかりと結ばれて救いと昇栄の道を歩むことができる。

神はおまえのために豊かな祝福を用意しておられる。それもおまえが努力すれば手の届くところにね。従順なおまえに、主はやがて報いてくださるよ。主はこのように約束しておられる。もし忠実であれば『汝ら王位、王国、公国、その他権能、領土……とを受け嗣ぐべし……永久にその子孫の続くことなり。』（教義と聖約 132：19）私はこの祝福をおまえやすべての神の子供たちに手にしてほしいと願っている。もちろん、それは天父が望んでおられることでもある。』□



「主が予告されているように、  
 私たちは現在人々が肉にあっても  
 また霊にあっても恐れおののいている  
 時代に生き(教義と聖約45：26参照)、  
 多くの人はこの人生の戦いに疲れ、  
 落胆しています。……  
 絶望という重荷を背負っている人は、  
 主のもとに来てください。  
 主のくびきは負いやすく、  
 その荷は軽いからです。」  
 エズラ・タフト・ペンソン大管長



## 「わたしを記念するため、 このように行いなさい」

アジア地域会長会第二副会長  
ジョージ・I・キャノン

**復**活されたあと、ニーファイ人を訪ねられた救い主について、このように記録されています。

「すると、イエスはまたパンを裂いてこれを祝して弟子たちに食べさせたもうた。

弟子たちが食べ終ると、イエスは弟子たちにパンを裂いて群衆に与えよと仰せになった。

そして、弟子たちがパンを群衆に与えるとき、イエスは弟子たちに葡萄酒を飲ませ、群衆にもこれを与えよと弟子たちに仰せになった。

イエスは……仰せになった。

『このパンを食うものはわが体（のしるし）を食いてその身も霊も養い、この葡萄酒を飲む者はわが血（のしるし）を飲んでその身も霊も養うにより、その身も霊も飢え渴くことなく、常に飽きてあらん』と。」

(III ニーファイ 20 : 3-5, 7-8)

予言者ジョセフ・スミスに与えられた啓示の中で、救い主は教会員にこのように命じられました。

「汝なおさら充分に世の汚れに染まざる様、祈りの家に行きてわが聖日に汝の聖式を捧ぐべし。

そは誠にこの聖日は、汝命ぜられて働きを休み、いと高き者に礼拝を捧ぐべき日なればなり。」(教義と聖約 59 : 9-10)

その知恵と愛によって、天の御父は私たちに安息日ごとに集まり、聖餐を受けて、主と交わした誓約を新たにしようと命じられたのです。

聖餐の祈りの言葉は、啓示として主から直接与えられました。

ハービー・フレッチャー博士は、自著のテキスト「善良なる生活」の中で、予言者ジョセフ・スミスがモルモン経にある聖餐の祈りの言葉を翻訳したときの状況について、次のように説明しています。

「モルモン経にある聖餐の祈りのところに来たとき、ジョセフはよどみなく口述し、

オリヴァ・カウドリがそれを書き取った。大抵の著述家は最高の表現が得られるまで何度も書き直すものであるが、ジョセフの場合、表現に迷うことはなかった。私に言わせれば、これこそ神から授けられたものであるという確固とした、動かし得ない証拠である。ジョセフのような若者の年齢、経験、環境、生い立ちなどから、自分の才能だけでこのような感銘深い聖餐の祈りが書けたとは、どう考えても理屈に合わないように思える。天からの靈感によらずには成し得ないものであった。」(ハービー・フレッチャー「善良なる生活」日曜学校福音の教義クラステキスト、1961年)

毎週日曜日、聖餐の祈りを捧げることは、各人がひざまずいて、その祈りを捧げているのと同じようなものです。聖餐にあずかることによって、私たちは天父と誓約を結ぶ機会を得ているのです。私たちは次のような誓約をします。

「御子のからだの記念にこれをいただくよう……御子の血の記念にこれをいただくよう」

このとき私たちは、主なる救い主イエス・キリストの無限無窮の贖いについて深く思いめぐらし、主が愛の心で私たち一人一人のために払ってくださった犠牲についてじっくり考えることができます。また心の中で「そのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった」(ヨハネ 3 : 16) 天父に感謝することもできます。

「喜びて御子の御名を受け」

御子のみ名を受けることについて、ベンジャミン王は次のように述べています。

御子のみ名を受けるためには、「肉欲に従うことをすてて主キリストの身代りの贖罪に由って聖徒となり、幼児のように従順で柔和で謙遜で忍耐で愛情に富み、幼児がその父に従うように、主が負わせたもうすべ

てのことに喜んで服従しな」ければなりません。(モーサヤ 3 : 19) 私たちに誓約を更新する機会が与えられているのは、贖い主の真の弟子となり、自身の生活の中で犠牲の精神を実践するためなのです。主は言われました。「汝誠に真にへりくだりたる心と悔いる精神とを以て、汝の神に義しき捧物となすべし。」(教義と聖約 59 : 8)

御子のみ名を受けるということは、何とすばらしい特権でしょうか。

「御子を常に忘れず」

この「常に」という言葉が非常に大切です。私たちはいつどんなときでも救い主のことを思い、救い主を生活の中心にすることを誓約するのです。毎朝夕、私たちは祈りを通して救い主と交わり、その導きを受ける機会があります。また「私たちはキリストのことを話し、キリストのことを喜び、キリストのことを説教し、キリストのことを予言」します。(II ニーファイ 25 : 26)

「またその下したまえる誠めを守る」

12年ほど前、ゴードン・B・ヒンクレー副管長が、メサ神殿の見学を終えたプロテスタントの牧師一行と話していたときのことです。当時、メサ神殿は大規模な改造工事を終えて、オープンハウスが催されたばかりでした。ひとりの牧師が、神殿のどこを探しても十字架が見あたらないことに触れました。彼にとって十字架はキリスト教の象徴だったので。「それなのに、どうしてイエス・キリストを信じていると言えるのですか。」

そこでヒンクレー副管長は、次のように答えました。「私たちにとって、十字架が象徴するのは死せるキリストであって、私たちが宣べ伝えるメッセージは、生けるキリストの言葉だからです。」するとその牧師はこう尋ねました。「十字架を使わないとすれば、あなた方の宗教の象徴は何ですか。」

# 各地のたより

ヒンクレイ副管長は、私たちの生活そのものが唯一の価値ある信仰の表われ、つまり私たちの礼拝の象徴とならなければならぬと答えました。

ヒンクレイ副管長はこの経験を語った1975年4月の総大会の説教の中で、このように述べています。

「私たちは死の象徴である十字架を信仰の象徴にはしない。救い主は生きておられるからである。……いかなるしるしも、いかなる彫刻や美術……も、生けるキリストの栄光とみ業を表わすことはできない。イエスはどのような象徴を使うべきかについて、こう答えておられる。『もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。』(ヨハネ14:15)

キリストを信じる私たちが、卑劣で、下品で、俗悪なことを行なえば、キリストに対するイメージを汚すことになる。逆に、

上品で、寛大な行ないを示せば、私たちが受けているみ名を一層輝かすことになる。』(『大会報告1973-75』p.368)

「御子の『みたま』常に一同と共にましますよう」

主は約束しておられます。「『このパンを食う者はわが体(のしるし)を食いてその身も霊も養い、この葡萄液を飲む者はわが血(のしるし)を飲んでその身も霊も養うにより、その身も霊も飢え渇くことなく、常に飽きてあらんと。』(IIIニーファイ20:8)そして記録者ニーファイは、このような重要な言葉を残しています。『群衆はみなパンを食ひ葡萄液を飲むと『みたま』に満され……た。』(IIIニーファイ20:9)

主に対する信仰をもって聖餐会に臨み、救い主を愛し、その戒めを守るように努めるならば、私たちは主のみたまを授かるの

です。そのみたまは、翌週までの間私たちに支え力づけてくれます。

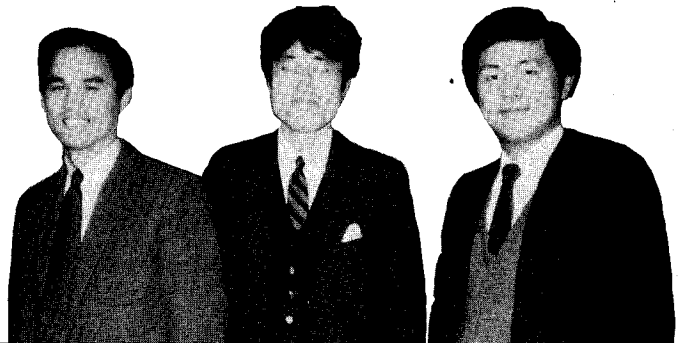
かつて十二使徒定員会の一員であったメルビン・J・バラード長老は、次のように述べています。

「私は聖餐が施されるときにみたまがそこに宿り、頭の上からつま先まで温かくなるのを感じたことがある。あなた方も霊の傷が癒され……るのを感じることができる。』(『聖餐の誓約』『聖徒の道』1976年6月号、p.252)

このバラード長老の言葉は真実です。真にへりくだる心と悔いる精神をもって聖餐にあずかることは、何という幸せでしょうか。そうするとき、私たちの信仰は強められ、日々の問題に対処するために必要なみたまを授かるのです。主を記念するために、毎週このように行なおうではありませんか。

## 再組織された長野地方部長会 新地方部長に関敏朗兄弟召さる

昨年11月30日、1984年2月に長野地方部が設立されて以来地方部長を務めた高瀬満兄弟が解任になり、新たに関敏朗兄弟(前第二副地方部長、写真中央)が召された。第一副地方部長に松沢健兄弟(前地方部評議員、写真左)、第二副地方部長に望月孝夫兄弟(前松本支部第二副支部長、写真右)が召され、長野地方部長会が再組織された。



## 私を変えた福音の光

長野地方部地方部長 関 敏朗

家族と共に安息日の定例集會に集う自分を振り返るとき何とも言えない感慨を覚えます。現在の自分とその生活が、8年前の改宗以前のそれと比べて何と大きく違ったものになっていることか。それは驚嘆にも似た思いでもあり、聖餐会に在る自分に拍手をしてやりたい、そんな気持ちかもしれません。福音によって人が新たに生まれるとはこのことを言うのでしょうか。進行中のわずかずつの変化ではありますが、私には奇跡とも思えるのです。(このことから、主イエス・キリストは現在も生きて日々

み業の奇跡を行なっていられることが明らかです)

異邦人の突然の訪問に驚いた祖母の頼みで対応した高校3年の私に、彼らはモルモン経を手渡しました。請われるままに1週間借りはしたものの、そのモルモン経はまったく読まれることなく宣教師の手に戻りました。数年後、学業を終えて会社に職を奉ずるようになってしばらくしてから、私の家の玄関に主は再度その僕を立たせました。拒絶する明確な理由がないままに私は福音について教えを受けるようになり、教

員としての生活を始めたのです。カットオフジーンズにサングラスで教会に集う当時の私の標準が、良識ある教会員のひんしゆくを大いに買ったと後年になって聞きましたが、今でも赤面の思いがします。

しかし、主は常に様々な方法で私の成長を助けてくださいました。その最たるものが現在の伴侶である妻と次々に私たちに託された子供たちです。私はこの最愛の同僚たちから絶えず霊的な啓発を受けています。互いに良い感化を与え合う家族でありたいと思います。特に妻の理解と協力なくして現在の私はなかったでしょう。彼女は福音の真実性に対する清新な証と行ないによって、神権者として支部長としての働きに挫折しそうな私を幾度となく励ましたからです。

長女は自分の通う幼稚園の担任の先生にモルモン経を贈ると宣言して、わが家に伝



関ご家族

道の決心と喜びをもたらしました。

また次女は「お父さまはいきています」「子供の歌」(B-39)を遊びながら歌っていたとき妻に、「この歌を歌うとなぜか涙が出てくるの」と告げました。少しく鼻風邪であったのを差し引いても、「みたま」について教えてくれた彼女に妻と共に感謝したのでした。そして今、この霊たちを再び天

父のみもとに連れ帰る責任を痛感しています。

年末の家庭の夕べで、私たちは「予言者に従う」という今年の我が家の目標を決めました。ペンソン大管長のすべての勧めを謙遜に従順に実行しようと皆で約束しました。

#### 前任者の模範に倣って

前地方部長の高瀬兄弟とは地方部長会の中で共に働く機会に恵まれました。彼の指導力、また強靱な<sup>きょうじん</sup>靈性に何度も感銘を受けました。打てば響く活発な精神の持ち主である高瀬兄弟から私は多くを学びました。常に自分の人生の積極的な主人であること、目標を設定し管理すること、家族を愛し同胞を愛することなどです。私たちは心から高瀬兄弟と彼の家族を尊敬し、その模範に感謝しています。

長野地方部は設立されて4年目を迎えました。地方部のテーマである聖徒の名にふさわしい教会員であるようにと、長野、松本、諏訪の各支部に集う私たちは前進します。(せき・としろう 1955年生まれ)

## 新役員の新任(任命)

11月18日から1月30日までに日本東京管理本部会員記録統計課に通知のあった役員の新任(任命)

- 札幌西ステークス新琴似ワード部  
新監督: 原田久(前任者: 山之内巖)
- 札幌伝道部函館支部  
新支部長: 松橋渡(前任者: 古河廉一郎)
- 釧路地方部釧路支部  
新支部長: 高木亨(前任者: 保谷和彦)
- 東京北ステークス川越ワード部  
新監督: 高山秀二(前任者: 吉田憲博)
- 北陸地方部小松支部  
新支部長: 山野武幸(前任者: 北野智之)
- 大阪ステークス大阪ワード部  
新監督: 河野達広(前任者: 木下修)
- 福知山地方部<sup>ふちぎ</sup>相生支部  
新支部長: 藪内富士夫(前任者: 道下友平)
- ★名古屋ステークス刈谷支部は昨年12月14日付で刈谷ワード部となった。



## 北陸地方部大会に 504人の出席 ステークス部設立に向けて

●大会で歓迎のあいさつをする  
福元隆司地方部長

れでもプロジェクトの話し合いの中で決定したことが一つ一つ実行に移され、日を追うに従って、これまでにない充実感と熱気が会員や指導者の中で高まってきました。

福元地方部長は、各支部からリストアップされたすべてのお休み会員に手紙を書き送りました。また、各支部でホームティーチングそのほかの働きかけが、お休み会員に対して行なわれました。その結果、大会当日には27人もの兄弟姉妹がなつかしい顔を見せてくださいました。

また友人、知人、家族に対する働きかけも力強く行なわれ、その努力が実を結んで当日には教会外の方が98人も大会に出席され、共に主の愛と「みたま」を分かち合うことができました。

「人類が現世に在るのは幸福を得んためである」(IIニーファイ2:25)という聖句をテーマにして行なわれたこの地方部大会は、目標をかるうじてクリヤする504人という出席者を迎え、ブロードヘッド伝道部長の管理のもとに、「みたま」に満たされた集いに終始しました。

私たちの心は、大会で得られた靈感と、困難と思われた目標を達成できたという喜びで満ちあふれました。

「人が信仰を得てから汝の働きが始まるのである」(イテル12:30)と、モロナイは主に向かって語りかけています。

昨年11月9日の北陸地方部大会に「500人出席」というチャレンジを与えられた北陸地方部の教会員にとって、その目標を達成するには、このモロナイのように主に対する大きな信仰をはぐくむことが絶対に必要でした。なぜなら1986年1月から8月までの全地方部の聖餐会平均出席者数は340人でしかなく、500人というチャレンジはまさしく「不可能」という言葉の裏返しだったのです。

しかし、その信仰は初めに地方部長会の

中で芽を出し、そして地方部役員の中で育っていき、やがて全教会員の中に広がっていきました。近い将来、この地にシオンのステークスを設立せよとの命を主から受けている私たちにとって、11月の大会は「シオンの礎を置く」ための大切な大会であり、是非とも達成しなければならない目標でした。

そのために北陸地方部では初めて、「大会成功プロジェクトチーム」を作り、プログラム作成、広報、会場設営、出席奨励、バスの手配など、いくつかの部門を作って動き始めました。初めての経験で、なかなか理想どおりには機能しませんでした。そ

# 12月に召されたJMTC 第91期生8名の名簿

S:ステーク部, W:ワード部, B:支部

(写真左より)

〈名前〉	〈出身地〉	〈伝道地〉
1. 水野雄二	静岡 S / 清水 W	岡山伝道部
2. 松田陸美	札幌 S / 豊岡 B	福岡伝道部
3. 久高仁美	横浜 S / 川崎 W	福岡伝道部
4. 新富裕子	大阪堺 S / 堺 W	仙台伝道部
5. 菅野せつ子	東京 S / 三鷹 W	神戸伝道部
6. 沼倉由美子	札幌 S / 旭川 W	福岡伝道部
7. 佐藤幸三	広島 S / 東広島 B	東京南伝道部
8. 竹下光春	大阪北 S / 茨木 W	神戸伝道部



主は確かに生きておられます。私たちは今回の大会を準備し、実現する過程において、その証を強くしました。主は私たちの信仰を受け入れてくださり、私たちと共に働いてくださったのです。

また今年度ステーク部設立に向けて、北陸地方部ではベンソン大管長のチャレンジを受け入れ、会員一人一人がモルモン経をよく研究して証を強めるために、また多くの人々にモルモン経を読む機会を提供するために、「モルモン経10,000冊配付プログラム」を開始しました。また、その一貫として昨年12月28日から1月6日までの10日間にモルモン経読破キャンペーンを実施し、多くの会員があわただしい年末年始に時間を作って1日約100ページずつモルモン経を読み続け、読破しました。これまでとは違って変わった非常に霊的な状態で新年を迎えるという経験をいたしました。

「北陸中の全家庭をモルモン経で埋め尽くしたい」という日光伝道部長（地方部）のビジョンに比べれば、今回の目標はほんの手始めに過ぎませんが、それでも私たちの信仰と犠牲の精神を、主に知っていただくには十分な価値があると思っています。また、このプログラム実施に伴って会員の伝道参加が活発になり、改宗者も増し加えられるに違いありません。

すでに大会後の2カ月間に地方部全体で15人のパプテスマが行なわれ、主のみ業の発展に拍車をかけてくれました。教義と聖約第64章32-34節にあるように、私たち一人一人の信仰と行ないの結果として「シオンの良きものを」食べることができるように、続けて頑張っていきたいと思います。主がこの業の指導者であり、助け手であることを重ねて証します。(レポーター：北陸地方部第二副地方部長・山田憲彦)

教会外の方々に見ていただいて、モルモン経や教会について知ってもらおうという意気込みがあったからでした。

12月に入り、音響や照明、小道具が加わって一層迫力が出てきました。

当日、衣装、メイクが終わってよいよ本番です。題名は「帰らざる旅」。リーハイ、ニーファイがエルサレムを出て新しい地を目指し、旅に出るまでを描いたモルモン経ニーファイ第一書の出来事を基にして劇にしたものです。舞台がとても順調に台本どおりに進んでいくにつれ、私は不思議な感動を覚えました。最後の「愛するならば」の合唱が終わったときには安堵感で満たされていました。カーテンコールのあと、監督のあいさつがあり、教会に初めて来られた方々に私たちの証を記したモルモン経

## 劇「帰らざる旅」の上演と 私たちの伝道

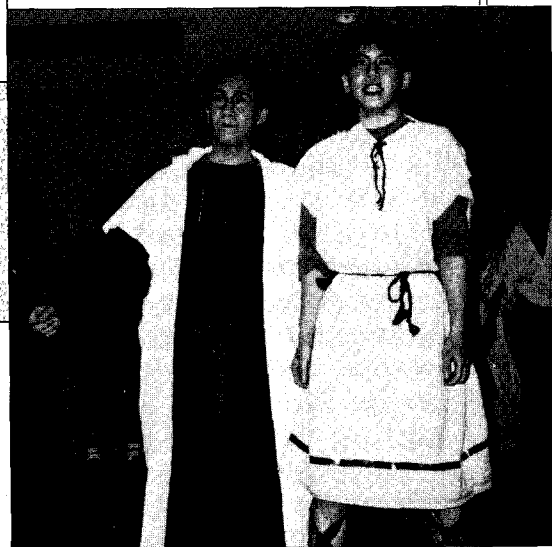
東京西ステーク部八王子ワード部

八王子ワード部ではクリスマスに、教会周辺の方々や求道者の方々に教会について知ってもらう機会にしようと、昨年12月20日に劇を上演することにしました。

8月から脚本、演出、監督の決定などの準備が開始され、11月に膨大な脚本がキャストやスタッフの手に渡されました。練習

が繰り返され、カットされたり加えられたりして劇が作りあげられていきました。

11月になると平日の練習も増え、仕事の帰りに教会で遅くまで、また兄弟たちは若い姉妹たちが帰ったあとも夜中まで見せ場を繰り返し練習しました。一人一人がこれほど真剣に練習に打ち込めたのは、この劇をただ演じるのではなく、ひとりでも多く



●荒野の旅を導くリーハイとニーファイを演ずる八王子ワード部の教会員



がプレゼントされました。来場した150人中、非教会員は50人ほどで、それらの方々に全部で36冊配付されました。また、来ていただいた方々をお願いしたアンケートには全員が「よかった」との感想を寄せてくれました。

私は昨年8月にバプテスマを受けたばかりの教会員ですが、劇にキャストとして参

加することができました。多くの兄弟姉妹と一緒に活動したり、また劇を通してモルモン経について学び、教会に親しむよい機会でした。これからも教会での様々な活動を通して自分自身を高め、またいろいろな人々に教会のことを伝えていきたいと願っています。(レポーター：八王子ワード部日曜学校書記補助・熊谷理佳)

て開かれるセミナーグランプリに参加するためです。

明けて11月3日、名古屋ステーキ部センターのホールを埋めた80人の青少年と70人の指導者の姿を見るだけで、若い兄弟姉妹は感動を覚えました。各支部ではごくわずかな人数でクラスを開いていますが、実は彼らの仲間はこんなにたくさん、いや世界中に何万人といるのです。

午前中のハイライトは、聖句探し競争です。86年はおもに教義と聖約から学んでいますが、その中の40の重要な聖句を早く見つける競争は、人生の様々な問題に対処するために、解決のための聖句をすぐに思い浮かべる訓練なのです。教育部の土田勝指導主事が読みあげる日本一難解な設定ストーリーの問題を解決するマスター聖句を選び出し、そのページを開けた聖典を頭上高く差し上げるそのスピードと正確さを競う様子は、まるでスポーツ競技のようです。予選で各地の代表が7人ずつ選ばれ、準決勝が行なわれます。当地方部からの代表全員が決勝の10人の中に勝ち残ったときは信じられませんでした。

拓兄弟はここでも優勝し、尚子姉妹は第4位、さらに尚子姉妹の描いたスノー大管長は似顔絵部門で第1位となりました。

ここでの上位5人が、11月24日の大阪地区セミナーフェスティバルに招待されました。

大阪地区の聖句探しの決勝が終わり、5人が選ばれ、こちらの5人との決勝の火蓋が切られました。拓兄弟は前半の絵による出題で出遅れましたが、後半ようやく調子を取り戻し、優勝。第2位の尚子姉妹の幼友達の麻子姉妹は第3位、第4位の宏之兄弟まで北陸地方部が入り、残るひとり三重の兄弟は第6位と健闘しました。

証会では5人全員が証をしました。大阪地区の青少年の証にはとても強いものを感じました。特に4年間一度も休まずにセミナーを完全にやり遂げた堺の兄弟の涙は印象的でした。

名古屋でも、大阪でも、遠くから来た私たちを、とても温かく迎えてくださいました。初めて会う私たちに宿泊場所を提供してくださったり、食事の準備をしてくださるなど、多くの方々の助けがあったことを忘れることはできません。

青少年たちも無論よく頑張って勉強していますが、彼らを教えてくださっている教師、指導者、ご両親の方々に深く感謝して

## '86北陸地方部のセミナー大会奮闘記

— 次々に持ち帰る賞状と賞品の山 —



●名古屋地区セミナーグランプリの聖句探し競争で決勝の10人中に残った北陸地方部代表の7人。左から  
山野真理姉妹(小松支部)  
田村麻子姉妹(富山支部)  
鳥山尚子姉妹(金沢支部)  
鳥山拓兄弟(金沢支部)  
山野宏之兄弟(小松支部)  
西村栄治兄弟(金沢支部)  
徳沢康兄弟(金沢支部)

**19** 85年11月23日に宣教師の訪問を受けたとき、金沢支部の鳥山拓兄弟(13歳)と尚子姉妹(16歳)のふたりは、1年後に何が起こるか知る由もありませんでした。1カ月後の12月24日、ふたりはバプテスマを受けました。

1986年3月、ユースカンファレンスで会った富山支部の田村麻子姉妹は、尚子姉妹が小学校1年のときのクラスメートと知って感激しました。

6月、ふたりが初めて臨んだセミナー大会のマスター聖句探し競争で尚子姉妹は優勝しました。しかし拓兄弟は20人中第16位に終わりました。ちなみに、同時に行なわれた歴代大管長似顔絵コンテストでも尚子姉妹は第1位になりました。

8月、拓兄弟はそれまでセミナーに熱を入れていませんでしたが、西村栄治兄弟(17歳)の家へ、教会歴史模型教材コンテストに出品する作品作りのために泊まり込んだとき、栄治兄弟から聖句探しの特訓を

受けました。

同月の大会で、小松支部の山野宏之兄弟(17歳)が優勝し、拓兄弟は一挙に第2位に躍進しました。「やればできるんだ」という自信がわいてきたのはそのころです。しかし尚子姉妹は第8位でした。

また拓兄弟と栄治兄弟の共同作品ソルトレーク神殿の精巧な模型は第1位に、そして尚子姉妹の本物そっくりな銃弾を受けたジョン・テイラーの時計は特別賞を受賞しました。

10月の大会では、拓兄弟はついに優勝し、尚子姉妹は第6位でした。

11月2日の安息日の午後、高山と北陸3県(富山、石川、福井)の7つの支部から、計42人(生徒22人)が、紅葉の中を名古屋を目指しました。名古屋のふたつのステーキ部と三重、北陸地方部のセミナーで学ぶ中学3年から高校3年の生徒が一堂に会して、互いの勉強の成果を示し合ったり、友情をはぐくむために、名古屋地区で初め

います。

今年のセミナー大会には、指導者たちが大勢出席してくださるようになってきました。70人を越えたことすらあります。一丸となって支援している支部のセミナーが成功しています。

鳥山兄弟姉妹のご両親は、ふたりが教会に入ってから、次々に持ち帰る賞状と賞品の山に驚きながらも、今ではセミナーの良き理解者となり、心から応援してくださっています。(レポーター：北陸地方部評議員・野崎史郎)



## セミナーで 学べる幸せ



北陸地方部金沢支部  
鳥山 尚子(16歳)

**私**と弟が教会に集うようになってから、ちょうど1年が過ぎようとしています。この1年間に体験し、教会で学んだことは数えきれないほどで、どれもすばらしい思い出ばかりです。中でも、特にセミナーの活動によって、1年前に比べるとずいぶん成長することができたように思います。初めて教材を渡されたときは、レッスンに対する期待と同時に、こんなに多くのことが覚えられるかしらとか、朝早く起きられるかなといった不安もありました。

4月になりさっそく教材を勉強し始めましたが、教義と聖約は想像以上にむずかしく、なかなかはかどりません。これからついていけるだろうかと心配したのもつかの間、その不安もレッスンを受けるやいなやどこか飛んでいってしまったのです。それくらい早朝レッスンは楽しいものでした。神様のことや教会の歴史、私たちが守らなければならない戒めなどが様々にたとえられ

## 雑誌からの話題

両親と子供六人、合わせて八人全員がクリスチャン。今は長男の潤さん(二三)と長女の佳代さん(二〇)がそれぞれ東京、アメリカで勉強中。残る六人が毎週日曜、カド勉強中。残る六人が毎週日曜、札幌・もみじ台団地の自宅に近い札幌・もみじ台団地の自宅に近い厚別の末日聖徒イエスキリスト教会に出かける。そして翌日、月曜の夜七時から一時間くらいが渦沼家の「ダンラン」の時間である。教会の方針でもあるのだが、全員集合の「家族の夕べ」――。潤さんが生まれてからずっとだから、もう二十三年になる。渦沼さんもこの夜だけは、余程のことがない限り家に直行する。子供たちが「禁足」。司会は順番。プロローグは賛美歌。両親から家計状況、家事分担の方法、子どもたちから学校の話などが出てくる。「こまね」と二女の紗代さん(一六)。この後、社会問題が飛び出ることもあり、納得するまで話し合う。ゲームと合唱でひと休みしたあと、また賛美歌を歌い、最後に腕タイパータイパー。陽子さんが腕によりをかけて作ったアップルパイなどがテーブルに並ぶ。「この時が一番、話が弾むんだ」と三男の史朗さん(一八)。家「夕べ」のお陰かもしれない。家族全員、いつも和気あいあい、くったくがない。「親は子と同じ目の高さに下がらなければ……」と渦沼さんはいう。とにかく家族一緒に遊ぶ。ボウリング、ミニゴルフ、それに夏はキャンプ。「夕べだけでない。毎日がダンランです」と四男の善之さん(一四)。渦沼さんの専攻は日本文学だが、フルブライト招へい講師として米国に渡ったことがあり、比較教育圏にも深い関心を寄せている。五十七年から二年間札幌・小学校PTA連合会の会長も務めた。いじめ・塾・登校拒否など教育問題に、子供の側に立ったユニークな論陣を張っている。



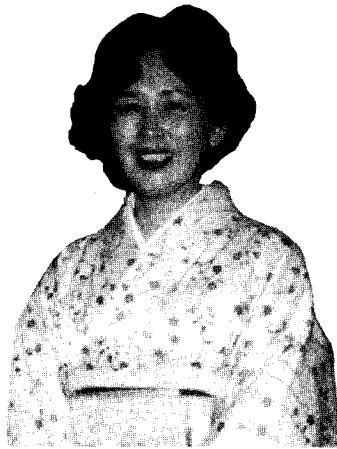
「夕べ」のひとつ。ゲームを楽しむ左から渦沼さん、二男の朗生さん(22)、紗代さん、善之さん、史朗さん、陽子さん

## 我が家のダンラン

の生活に生かせるのを知ったことです。ある日のレッスンのことです。教師の中村兄弟が私たちにこのような質問をされました。「この世で最もぜいたくなことは、どんなことでしょう。私たち生徒は、「多くの友人を持つこと」「受験に合格すること」などと、めいめいが自分のぜいたくについて

て、わかりやすく教えられます。朝早起きすることはつらかったですが、それ以上に学校では受けることのできない、このすばらしい授業に出席しようという気持ちでいっぱいでした。セミナーを受けて私が一番幸せに感じたのは、神様の言葉を若い私たちでも毎日

# 父よ



北陸地方部  
金沢支部  
徳沢 愛子

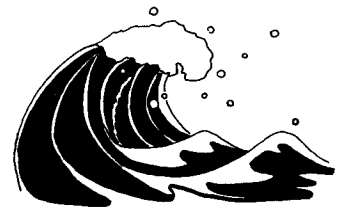
白い波が盛り上がってくるのが見えます  
この地上の  
あらゆる大陸の 島々の  
あらゆる岸边に 岩場に  
盛り上がった波が押し寄せてきます  
雄々しくぶつかってきます  
遙かな沖合いから生まれ続けた力は  
力こぶとなり  
ふたつの 三つの 五つの  
百の 千の 億の  
力こぶとなり  
大きな白い波となつて  
なだれ込んできます  
力は力を呼んで  
思いは思いを膨らませ  
倦まず 飽きず  
盛り上がってやってきます  
強い風 激しい雨  
ときに横なぐりの吹雪  
何をも恐れる間もありません  
ただ大きくうねり  
ぶつかります

濡れ光る岩場を目指します  
ぶつかります  
跳び越えます  
そのとき  
私のしづきは  
光るか 美しい形か  
知りません  
私は父の声を遙か遠くに認めます  
リズムに乗って  
ただ 天空に  
一瞬を楽しみます  
明るく 喜びます

厳冬 私の地方では  
あれを「波の華」と  
人は柔和な声で呼びかけます

(とくざわ・あいこ 1939年生まれ、金沢支部若い女性会長)

父よ  
小さい力を 弱い力を  
愚痴をこぼす時間はありません  
私はあの跳ね上がる一滴のしづきです



## 月曜夜は「家族の夕べ」

北海道教育大  
岩見沢分校教授

瀧沼

誠二さん (49)

陽子さん (50)

北海道新聞社発行の  
「月刊ダン」1986年11  
月号に掲載された、  
瀧沼誠二（札幌ステ  
ーキ部長）ご家族の  
「家庭の夕べ」

話していました。しかし中村兄弟が言われた  
たげたくはこうでした。「神様からの懲らしめ  
を受けるとのことです。」私にとってそれは  
とても新鮮で、思ってもみなかった答えで  
した。懲らしめを受けているとき、私たち  
は主に頼り、心から祈ります。普段より靈  
的に主に近くあることができるというので

す。悲観したり絶望したりするのではなく、  
いつも主を信頼し、懲らしめを受けてもそ  
の苦しみによって強く成長していくことが  
できれば、まさにそれはこの世で一番のぜ  
いたくで幸せなことだと思います。

私はセミナーで学んだ素晴らしい知識  
と知恵をもっと多くの友達や家族に、そし  
てまだ会ったことのない世界中の兄弟姉妹  
に伝えたいです。私や弟が、言葉でなくそ  
の態度によって、福音を家族に伝えること  
ができれば両親も妹も真理を知り、本当の  
家族となるにちがいないと信じています。  
それは私が行なうべき最も大切で、喜びに  
満ちた伝道なのです。

今私はセミナーというプログラムに心  
から感謝しています。そして私をいつも励  
ましてくれるセミナーの仲間たちに心か  
ら感謝します。同じ目標に向かい共に励ま  
し合う仲間がいるということは、この上も  
ない幸せです。また、私に知識と知恵を与

え、指導してくださる教師の中村兄弟に感  
謝します。そして私を愛しやさしく真理へ  
と導いてくださる天のお父様に、だれより  
も感謝しています。セミナーで学んだど  
んなことにも神様のみ手があることを忘れ  
ずに生活したいです。私と、そして愛する  
人たちのために……。 (とりやま・なおこ)





●横浜ステーク部扶助協会・若い女性の年次大会で自作の作品を着てフロアショーに出た横浜中央ワード部の若い女性。左より大山麻裕子姉妹、相良なおみ姉妹、大山麻希子姉妹（現在3人で活動している）

## 貴重な「若い女性」の経験

相良 なおみ(17歳)

「若い女性」に入ってもう5年たちました。その5年間に私が得たものは、今ここではとても書ききれません。

一番に残っているのは、私が「若い女性」に入ってからすぐのときのことです。そのとき、私たちの目標である「成長する私」を達成するために、毎週土曜日の3時から教会や教会の周りを掃除していました。そのときの「若い女性」の会長さんは、寒い日も、雨の日も毎週遅れずに来てくださいました。

当時は、遅れずに来るのが当然だと思っていました。しかし、今考えてみますと、会長さんは大変な犠牲を払って責任を果たしてくださっていたんだと感じています。

そのときに私が得たことは、今でも大変役立っています。

私が今まで5年間で得たことは、これから扶助協会に行っても得ることはできないと思います。この貴重な経験は二度と得ることはできないでしょう。

今まで私を助け導いてくださった会長会をはじめとする多くの指導者の方々に感謝します。私が受けたすべてのことを、そしてそれ以上のことをビーハイブやマイヤメイドの人たちにしあげたいと思います。このことを一生懸命に行なうとき、神様は確かに私たちを助け導いてくださることを証します。(さがら・なおみ)

## 「成長する私」の目標を通して 大山 麻希子(13歳)

私は、昨年1月からプライマリーを卒業して「若い女性」になりました。

最初は、行事が多いのでびっくりしました。夏のキャンプのときには、知らない人ばかりでしたが、たくさんの人と友達になれてうれしかったです。

また、月一度の活動も普段は行かない所に行ったりできるので、とても楽しいです。特に相良なおみ姉妹のような大先輩がいるので、何でも安心してできます。

「若い女性」では「成長する私」というプログラムをしています。項目ごとに目標を立てて、少しずつ実行していくのです。今、私は毎日新約聖書を1章ずつ読む目標を立てています。

「成長する私」を始めてから、教会のことが自然に生活の中に入ってきました。プライマリーのときは、教会のことは日曜日くらいしか関心を持っていませんでしたが、目標を立て始めてから教会のことを多く考えるようになりました。

また活動を通して、学校の友達に教会のことを話すのがとても多くなりました。小学校のときは、教会に入っていると変な目で見られるのではないかと感じてなるべく教会のことは話さないでいました。しかし、今では教会のことを話すのがとても楽しいです。友達も様々で、教会に関心を持ってくれる友達と、持ってくれない友達がいます。確かに教会の良さは、普通の人にはなかなかわからないと思います。私もプライマリーのときは教会に行くのがめんどろで、何のために行くのかよくわかりませんでした。

これからは、もっと友達を誘って教会のことを多く考えるようにしたいです。(おおやま・まきこ)

## 若い女性になって

横浜ステーク部横浜中央ワード部

大山 麻裕子(13歳)

私は昨年中学生になり、「若い女性」となりました。プライマリーのときは「若い女性」というものがよくわからなくてどんなことをするのか不安でしたが、今は「若い女性」として活動できるようになってよかったと思います。

「若い女性」の初めての活動は、キャンプでした。最初班を作ったときは知らない人ばかりで、とても不安でした。それでも「若い女性」の付きそいの指導者も「若い女性」の女の子たちもすばらしい人ばかりで、うれしかったです。

最後の証会では、すばらしい証を聞きました。「若い女性」となって初めての活動でしたが本当に良かったと思います。

そのキャンプが終わってからも「若い女性」としていろいろな活動をしました。夏ごろから洋服を作って、昨年10月の年次大会のときに発表しました。縫い目が曲がっていたり、ゴムが通らなかつたりしましたが、みんながほめてくれたのでうれしかったです。

これからも「若い女性」でいろいろなことを学び活動していきたいです。相良なおみ姉妹や先輩のように、すばらしい女性に成長して多くの人々にこの教会を紹介して、一緒に活動できたらと思います。

(おおやま・まゆこ)

## 編集室から

●心に残った記事の感想文、各地の話題や行事、「日々の恵み」コーナーの証、「職業と信仰シリーズ」、カットなどをお送りください。5月号掲載分の締切りは3月10日【必着】です。投稿には必ず連絡先〔電話番号〕、教会での責任〔役職名〕、生年月日を記入してください。お送りいただいた原稿は一部手直しすることがあります。

●あて先：〒106 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会「聖徒の道」編集室 ☎03(444)5264

■お詫び訂正——2月号ローカル3ページの早坂孝志兄弟の文中に「宣教師は…彼女を神の使い」とあるのは「彼女は…宣教師を神の使い」の誤りです。

# 12月に召されたJMTC 第91期生8名の名簿

S:ステーキ部, W:ワード部, B:支部

(写真左より)

〈名 前〉

〈出身地〉

〈伝道地〉

- |          |              |        |
|----------|--------------|--------|
| 1. 水野雄二  | 静岡 S / 清水 W  | 岡山伝道部  |
| 2. 松田睦美  | 札幌 S / 豊岡 B  | 福岡伝道部  |
| 3. 久高仁美  | 横浜 S / 川崎 W  | 福岡伝道部  |
| 4. 新富裕子  | 大阪堺 S / 堺 W  | 仙台伝道部  |
| 5. 菅野せつ子 | 東京 S / 三鷹 W  | 神戸伝道部  |
| 6. 沼倉由美子 | 札幌 S / 旭川 W  | 福岡伝道部  |
| 7. 佐藤幸三  | 広島 S / 東広島 B | 東京南伝道部 |
| 8. 竹下光春  | 大阪北 S / 茨木 W | 神戸伝道部  |

